はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください。

このたびは、**圃場内運搬機**をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかにお買上げいただいた販売店にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、**「安全に作業をするために必ずお守りください」**を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買上げいただいた販売店へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため､使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

説明記号の見方

⚠危険	その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告文に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。
［重要］	誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

本製品の使用目的について

本製品は、圃場内運搬機ですので、農用の運搬機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（保証適用除外事項は、保証書をご覧ください。）

仕様について

本製品には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で仕様によっては該当しない項目もあります。

ＮＫＣＧ２０００−Ａ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥リコイルスタータ
ＮＫＣＧ２０００−ＡＬＢ‥‥‥‥‥‥‥‥セルモータ

本文の概要

1章 安全に作業をするために必ずお守りください	●安全に関する重要な内容を、代表的な作業項目について説明しています。個別の作業については、各項目をみてください。また、各安全銘板の内容と貼付け位置を示しています。
2章 保証とサービスについて	●保証とアフターサービスについて説明しています。
3章 各部のなまえと各操作部のはたらき	●本文中、よく使う部品の名称の紹介と、よく使う操作レバー、および部品の位置とはたらきについて説明しています。
4章 運転と作業のしかた	●エンジンの始動から走行のしかた、および運搬台の使用のしかたを説明しています。
5章 作業後の手入れについて	●機械を最良の状態にしておくために、毎作業後および長期間使用しないときの、手入れのしかたを説明しています。
6章 手入れと点検・調整について	●長期間故障がなく、本機を安全に使用するための点検・整備のしかたを説明しています。
7章 不調診断	●正常に作動しないときの点検・処置のしかたを説明しています。修理に出す前に確認してください。
8章 用語解説	●本文中に、出てくる用語について説明しています。
9章 その他	●仕様、および主要消耗部品について説明しています。
10章 電気回路図	●電気回路図を載せています。

目　次

はじめに　1

お願い……1
おことわり……1
説明記号の見方（危険・警告・注意・重要）……2
本製品の使用目的について……2

本文の概要　3

1章　安全に作業をするために必ずお守りください　6

1．作業者の体調・服装について……6
2．使用する機械について……7
3．運転前・作業前点検をするとき……8
4．作業をするとき……13
5．トラックへの積込み・積降しをするとき……19
6．格納をするとき……21
7．安全銘板の貼付け位置……22

2章　保証とサービスについて　24

保証書は大切に保管してください……24
アフターサービスをお受けになるときは……24
機械の廃棄について……24

3章　各部のなまえと各操作部のはたらき　25

4章　運転と作業のしかた　27

1．運転前の点検……27
2．燃料の点検・給油のしかた……29
3．エンジンの始動・停止のしかた……29
4．発進・旋回・変速・停止のしかた……33
5．運搬のしかた……38
6．坂道での運転のしかた……40
7．圃場への出入りのしかた……40
8．トラックへの積込み・積降しのしかた……41

5章 作業後の手入れについて 42

1．作業後の手入れ……42
2．長期間使用しない場合の手入れ……43

6章 手入れと点検・調整について 45

1．定期点検一覧表……46
2．各部の注油・グリスアップのしかた……47
3．各部オイルの点検・交換のしかた……49
4．エアクリーナの掃除・交換のしかた……51
5．燃料こし器の掃除のしかた……51
6．キャブレタの点検のしかた……52
7．燃料ホース・電気配線の点検のしかた……52
8．点火プラグの点検のしかた……53
9．バッテリパックの交換のしかた……53
10．クローラの張り調整のしかた……55
11．サイドクラッチレバーの点検のしかた……55
12．ブレーキの点検のしかた……57
13．走行クラッチレバーの点検のしかた……57
14．補助クラッチレバーの点検のしかた……58
15．締付けするところ……59

7章 不調診断 60

1．エンジンがかからない……60
2．エンジンの力がない……61
3．各部に振動が多い……61

8章 用語解説 62

9章 その他 63

1．主要諸元……63
2．主要消耗部品……64

10章 電気回路図 65

1章　安全に作業をするために必ずお守りください

●本機は圃場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。
●ここに記載されている注意項目は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
●ここに記載されている注意項目を守らないと死亡を含む傷害事故や機械の破損が生じるおそれがあります。
※ご購入された製品によっては該当しない内容も一部記載していますのでご了承ください。

1．作業者の体調・服装について

⚠警告

■こんなときは運転しない
●過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
●睡眠不足の人。
●視力不足のため表示内容が読めない人。
●取扱説明書の内容が理解できない人。
●酒を飲んだとき。
●妊娠しているとき。
●１８歳未満の人。
●運転が未熟な人。
【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

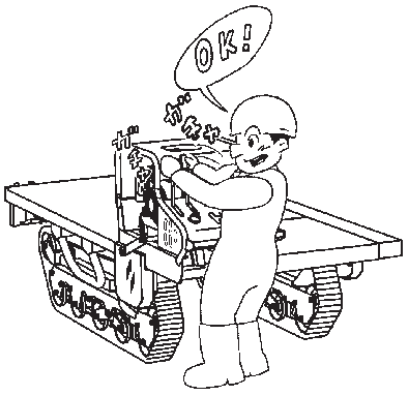


■作業に適した服装
はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した、防護具などを付け、だぶつきのない服装をしてください。
【守らないと】
機械に巻込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



2．使用する機械について

⚠注意



■点検、整備をおこなう

使用前と使用後には必ず機械の点検、整備をしてください。特に､走行クラッチレバー･サイドクラッチレバー・主変速レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障を生じるおそれがあります。

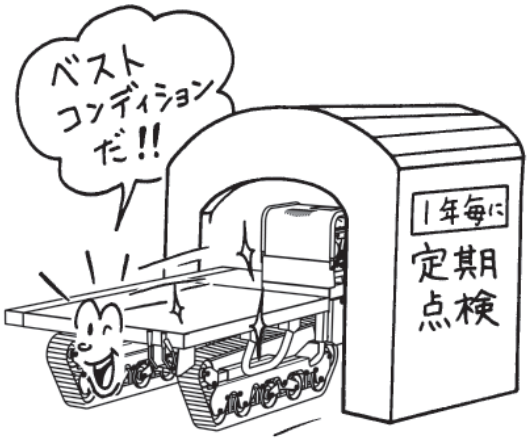


■機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に**「取扱説明書」**を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。

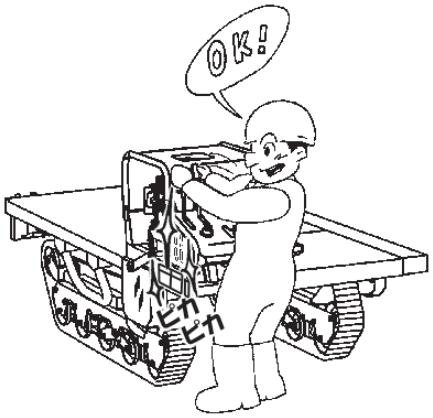


■定期点検、整備を受ける

１年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは２年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。



■安全銘板が破損しているときは、新しいものと交換する

本機には、操作安全銘板が貼り付けてあります。内容を十分に理解して、その内容に従ってください。
操作銘板が汚れで読めなくなった場合は、きれいにふき取り、読めるようにしてください。またはがれて紛失した場合などは、販売店に注文し、新しい銘板を貼り付けてください。

【守らないと】

誤った操作により、事故をひきおこす原因になります。

3．運転前・作業前点検をするとき

⚠危険



■注油・給油はエンジンが冷えてから

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油をしないでください。

【守らないと】

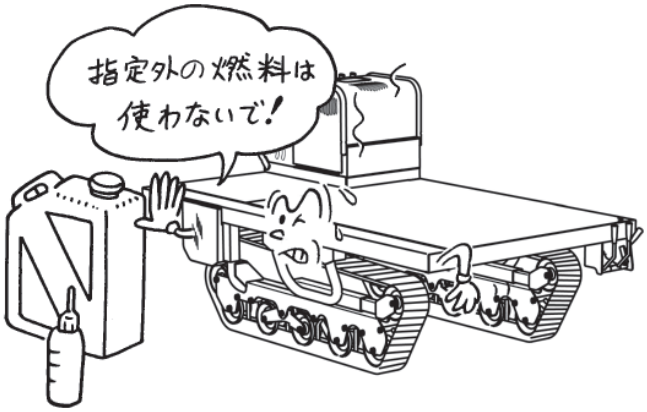
燃料などに引火して、火災をおこすおそれがあります。

■指定の燃料を使用

取扱説明書で指定している燃料を使用してください。また、ガソリンはポリタンクで保管しないでください。必ず鋼製燃料タンクで保管したガソリンを使用してください。

【守らないと】

性能が落ちたり火災事故をおこすおそれがあります。



■燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火し、火災をおこすおそれがあります。



■燃料キャップをしめ、こぼれた燃料はふき取る

燃料補給後は、燃料キャップを確実にしめ、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



⚠危険

■燃料もれに注意

燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすおそれがあります。



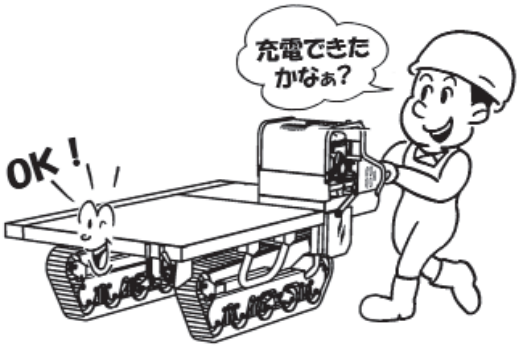
■バッテリパックの取扱注意

（セルモータ仕様）

バッテリパックは、エンジン始動用です。充電は、エンジンを始動して充電してください。指定以外の用途に使用しないでください。

【守らないと】

発熱、発火、破裂の原因となります。



■バッテリパックの改造禁止

（セルモータ仕様）

バッテリパックを分解したり、改造したり、工具などでショートやスパークをさせたり、強い衝撃を与えないでください。また、火中に投下したり、火気に近づけたりしないでください。

【守らないと】

故障の原因となったり、発熱、発火、破裂、火災などの原因となります。



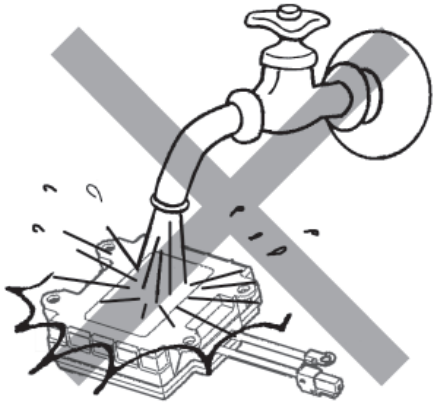
■バッテリパックを水に濡らさない

（セルモータ仕様）

バッテリパックを水などの液体で濡らさないでください。バッテリパックの端子部分にピンや針金などの金属物をさしこまないでください。

【守らないと】

感電やショートによる火災の原因になります。



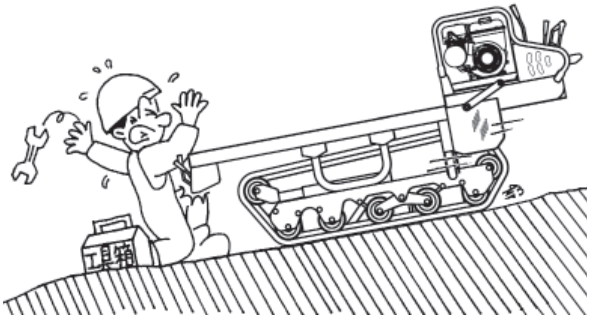
⚠警告

■点検、整備は平坦な安定した場所で

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラには車止めをして点検、整備をしてください。

【守らないと】

機械が転倒するなど、思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■バッテリパックの漏れた液は身体に付けない（セルモータ仕様）

バッテリパックから漏れた液を身体や服に付けないでください。炎症を防ぐためにこすったりせず、すぐにきれいな水で洗い流し、医師に相談してください。また、乳幼児の手の届く場所に保管しないでください。

【守らないと】

火傷をしたり、服が破れたり、思わぬ事故やけがの原因になります。



■機械の改造禁止

純正部品以外の部品を取付けないでください。改造をしないでください。

【守らないと】

機械の故障、事故・けがをまねくおそれがあります。



■クローラは必ず点検

クローラの張りを調整してください。クローラに亀裂がないか確認してください。

【守らないと】

クローラが外れたり、切れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



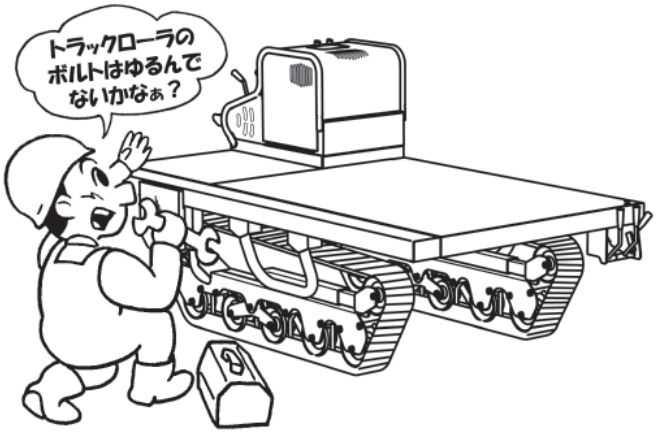
⚠警告

■トラックローラ取付ボルトの締付け確認

トラックローラの取付けボルトは、確実に締付けてあるかを確認してください。

【守らないと】

クローラが外れたりして思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■電気部品・コードを必ず確認

配線コードが他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接続部のゆるみがないかを毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災事故をおこすおそれがあります。

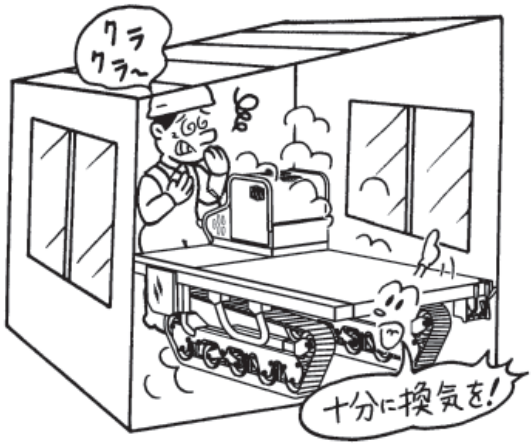


■排気ガスには十分に注意

閉切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故にいたるおそれがあります。



■マフラー・エンジン回りのゴミは取除く

マフラーやエンジン周辺部にわらくず・ゴミ・燃料などが付着していないか、またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないか毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。



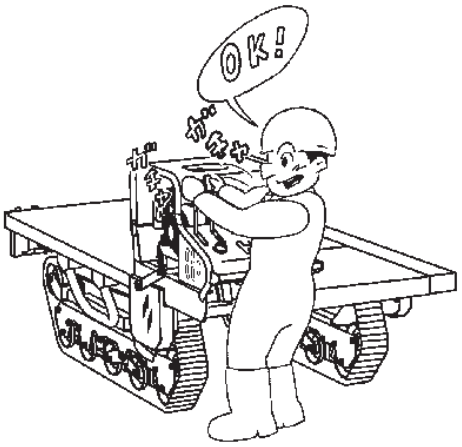
⚠注意

■ブレーキ・サイドクラッチレバーは必ず点検

ブレーキの効きが悪かったり、サイドクラッチレバーの取付部にガタや遊びがないか、点検してください。

【守らないと】

事故を引きおこすおそれがあります。

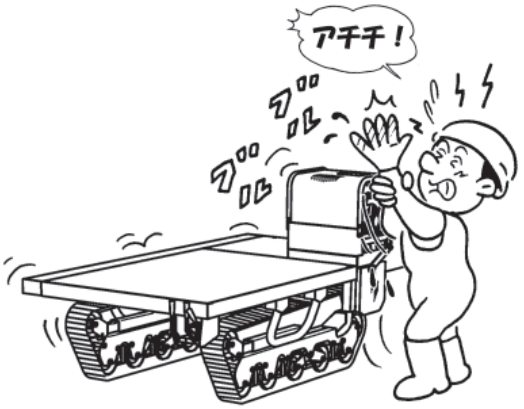


■点検、整備は高温部が十分に冷えてから

マフラーやエンジンなどの高温部分が十分に冷えてから点検、整備をしてください。

【守らないと】

燃料などに引火して、火災をおこしたり、火傷をするおそれがあります。



■点検、整備中はエンジン停止

点検、整備、修理または、掃除をするときは、必ずエンジンを停止してください。

【守らないと】

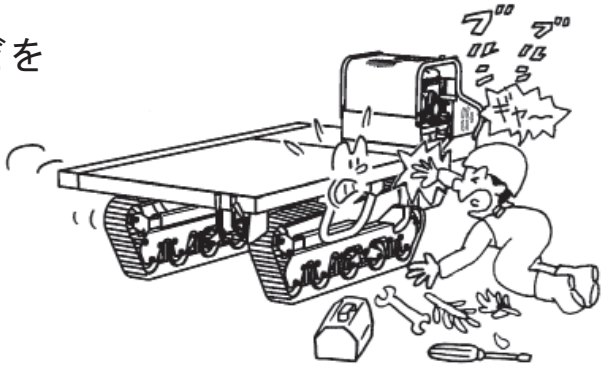
機械の下敷きや巻込まれてけがをするおそれがあります。



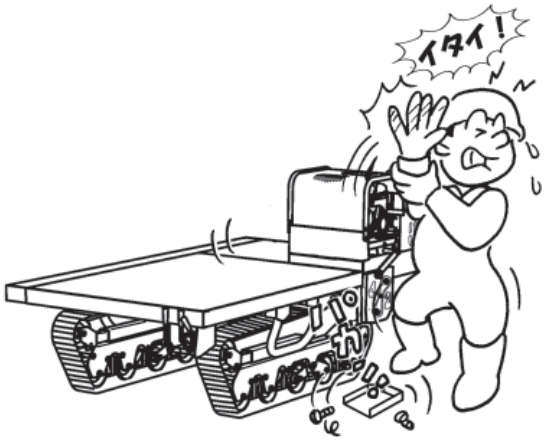
■部品を交換したり、巻付いた草などを取除くときはエンジン停止

【守らないと】

機械に巻込まれて重傷を負うおそれがあります。



⚠注意



■カバー類は、必ず取付ける

点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。

【守らないと】

機械に巻込まれたりして、傷害事故を引きおこすおそれがあります。

4．作業をするとき

⚠危険



■夜間作業禁止

本機を使用しての夜間作業や、暗闇での点検はしないでください。

【守らないと】

本機に巻込まれたり、視界がきかずバランスを崩し、転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。

■後進するときは低速で

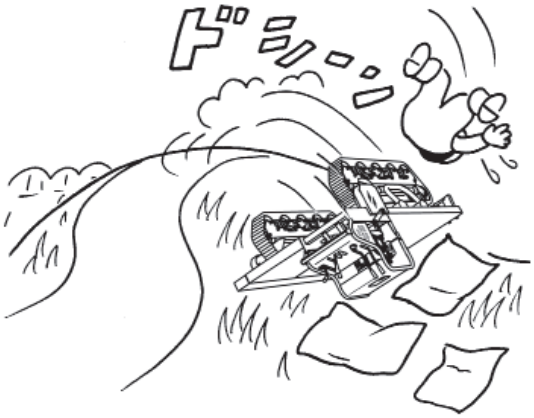


後進で移動するときは低速で行い、転倒しないように足元に十分注意し、後方に障害物がないか確認して障害物と機械との間にはさまれないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故をまねくおそれがあります。

■移動時は路肩に注意



坂道・路肩・障害物乗越え・溝のある場所・軟弱地などでは、十分注意してスピードを落として走行してください。

【守らないと】

転倒・転落などの事故によりけがをするおそれがあります。

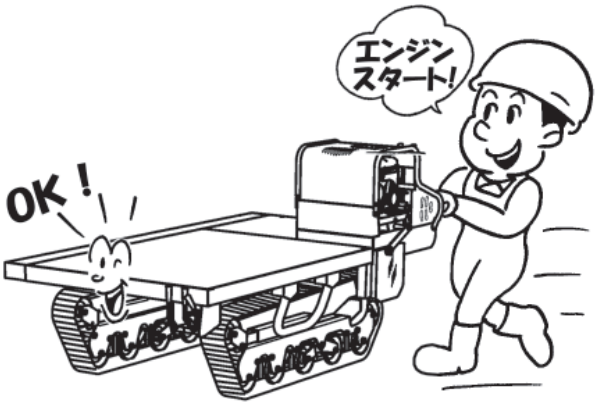
⚠警告

■エンジン始動時は周囲確認

エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

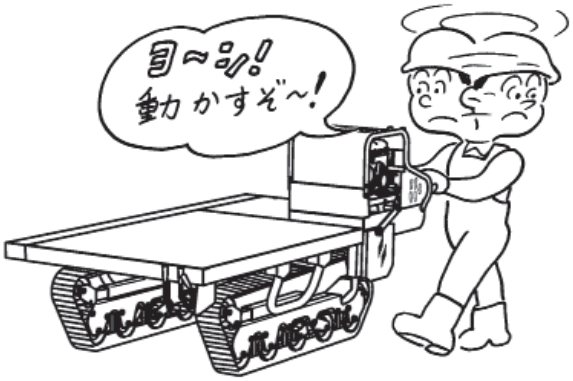


■周囲に合図してゆっくりと発進

エンジン始動時は、必ず走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にし、 周囲の人に合図をしてからエンジンを始動し、急発進しないようにゆっくり発進してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となることがあります。



■急な坂道ではサイドクラッチレバー操作禁止

急な下り坂では、サイドクラッチレバーを操作しないでください。急な下り坂では、エンジンブレーキを利用し、いつでもブレーキを掛けられる姿勢で運転してください。

【守らないと】

思わぬ方向に機械が旋回して、転落などの事故をまねくおそれがあります。

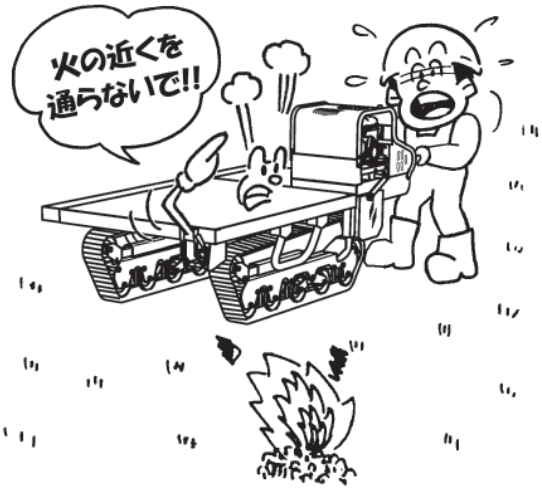


⚠警告

■燃えているゴミの上やその近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火し、火災になるおそれがあります。



■過積載禁止

最大作業能力以内で運搬してください。特に坂道では荷物を軽くして作業してください。

【守らないと】

転倒などにより機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

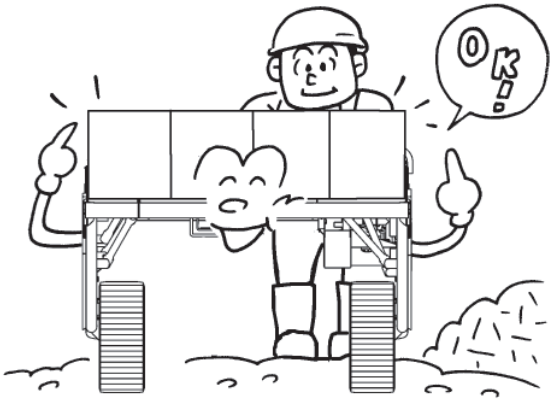


■積載物は荷台から、はみ出し禁止

積載物は荷台から、はみ出さないようにしてください。

【守らないと】

荷崩れをおこし転倒・転落をおこすおそれがあります。

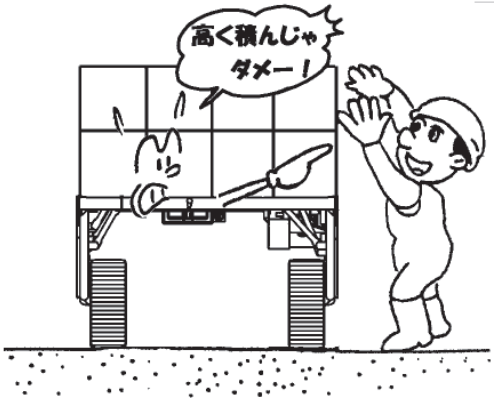


■積載物を高く積まない

積荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また前方の障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。

【守らないと】

機械の破損をまねき、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



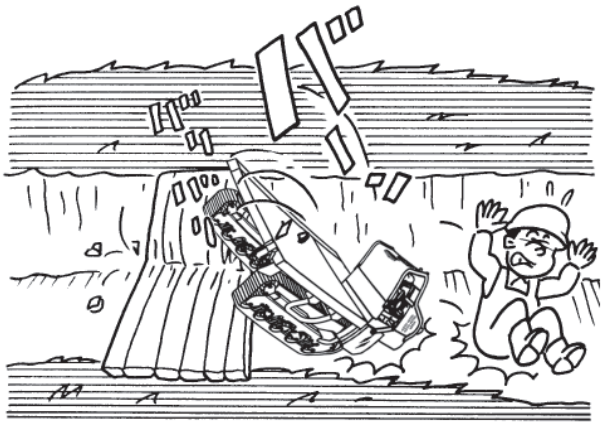
⚠警告

■溝・あぜを渡るときはあゆみ板を使用

圃場に入るとき、溝・あぜを渡るとき、軟弱な場所を通るときは、必ずあゆみ板を使用してください。あゆみ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】

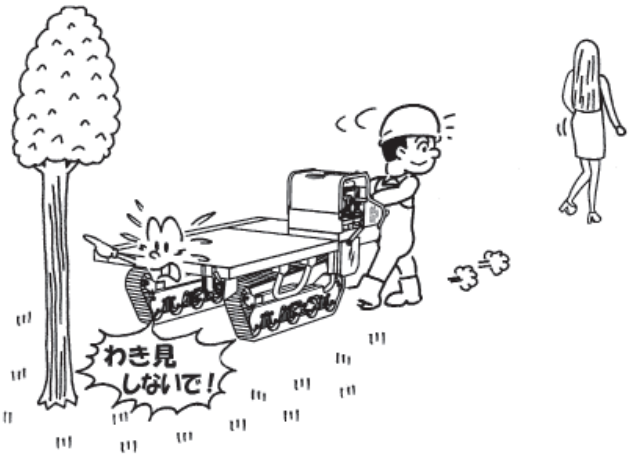
スリップや転倒による事故をまねくおそれがあります。



■わき見運転や手放し運転禁止

【守らないと】

傷害事故の原因となります。

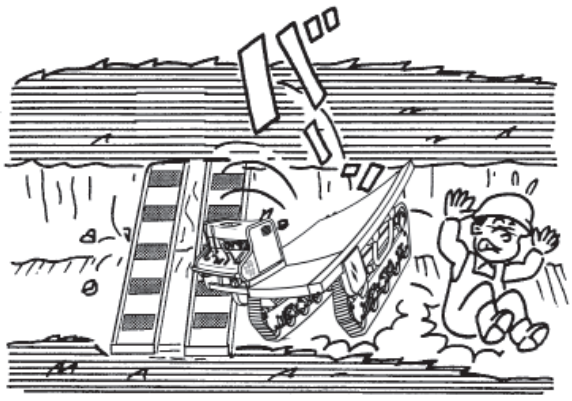


■急坂道・あゆみ板の上では変速禁止

急坂道やあゆみ板の上では、**「前進１」**、**「後進Ｒ１」**の低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。

【守らないと】

機械の重みで坂を下り、事故をおこすおそれがあります。

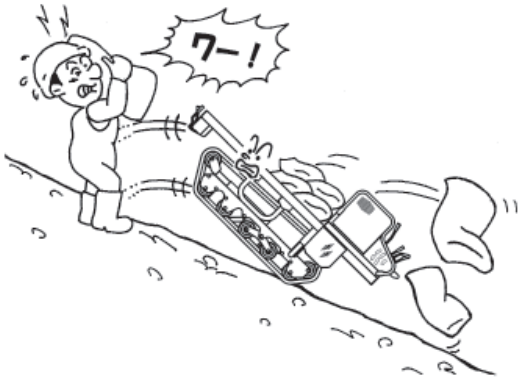


■坂道では荷物の積降し禁止

坂道で荷物の積降しをすると、本機のバランスが崩れますのでしないでください。

【守らないと】

転倒などにより、事故をまねくおそれがあります。



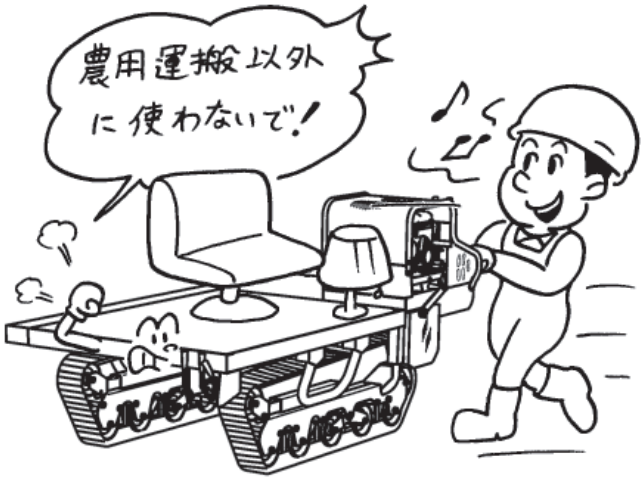
⚠注意

■農用の運搬以外は使用禁止

圃場内運搬機ですので、農用の運搬以外の作業や改造などは決してしないでください。
また、公道での走行はしないでください。

【守らないと】

思わぬ事故をまねくおそれがあります。



■くわえたばこでの作業厳禁

【守らないと】

火災など、思わぬ事故の原因となります。

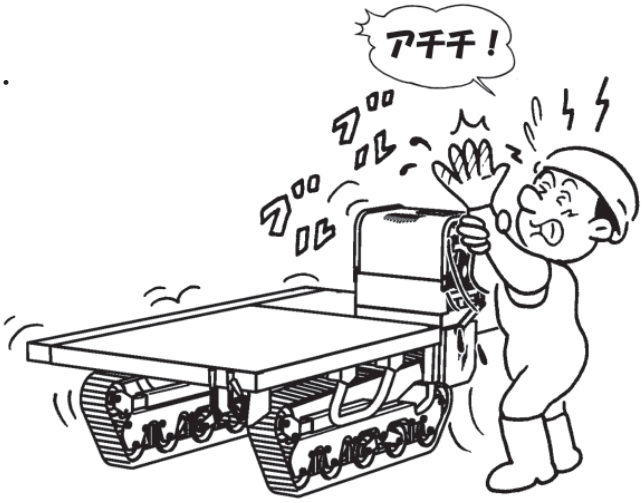


■マフラーの高温に注意

運転中およびエンジン停止直後の、マフラー・エンジンは高温ですので触れないでください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



⚠注意

■荷台には乗らない

走行中は荷台に乗って運転したり、人を乗せないでください。

【守らないと】

転落などにより、思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。



■急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときは､十分スピードを落としてください。また、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分速度を落としてください。

【守らないと】

転倒・転落事故や、機械の破損をおこすおそれがあります。

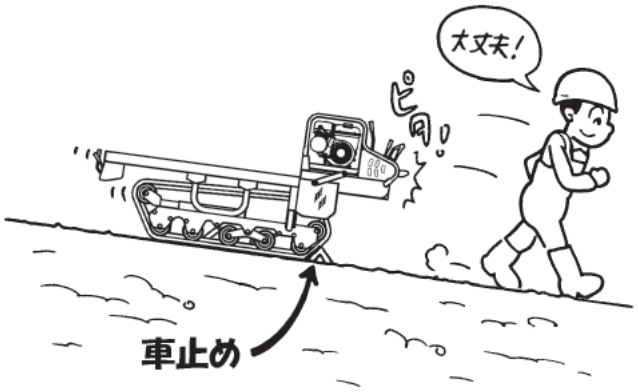


■機械から離れるときは平坦地に置きエンジン停止

機械から離れるときは、平坦で安定した場所に置きエンジンを停止し、走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にしてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

【守らないと】

機械が動きだし、事故の原因となります。



５．トラックへの積込み・積降しをするとき

⚠警告

■強度・長さ・幅の十分あるあゆみ板を使用

積込み・積降しをするときは、平坦で交通の安全な場所に、トラックのエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛けて車止めをしてください。使用するあゆみ板は、強度・長さ・幅が十分あり、スリップしないものを選んでください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。

《あゆみ板の基準》

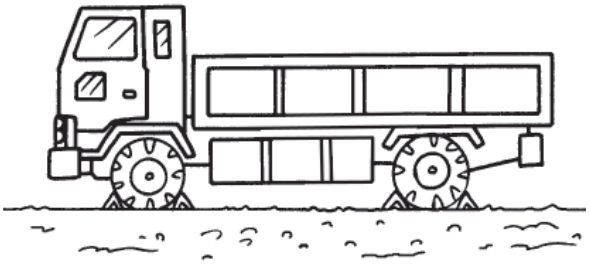
- ●長さ…トラックの荷台高さの４倍以上
- ●幅……本機のクローラ幅の 1.5 倍以上
- ●強度…本機の総重量に十分耐えられるもの（１本当たり）
- ●表面…すべり止めのあるもの
- ●形状…固定フックのあるもの

■トラックには必ず車止めを

積込むトラックの変速は「Ｐ」または「１速」･「Ｒ」位置に入れ、サイドブレーキを掛けて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて転落事故などをまねくおそれがあります。

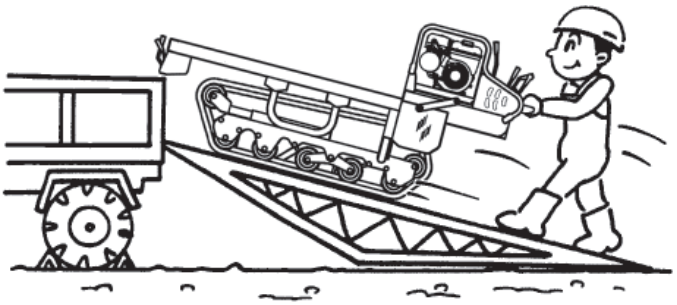


■あゆみ板は確実に掛ける

あゆみ板をそれぞれのクローラに合わせ、フックをトラックの荷台へ確実に掛けてください。

【守らないと】

あゆみ板が外れて本機が転落・転倒し、死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

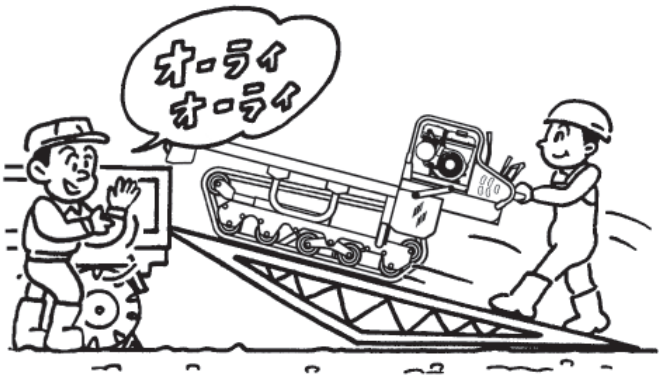


■積込み・積降し作業は誘導者をつけて

トラックなどからの積込み・積降し作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などの事故をまねくおそれがあります。



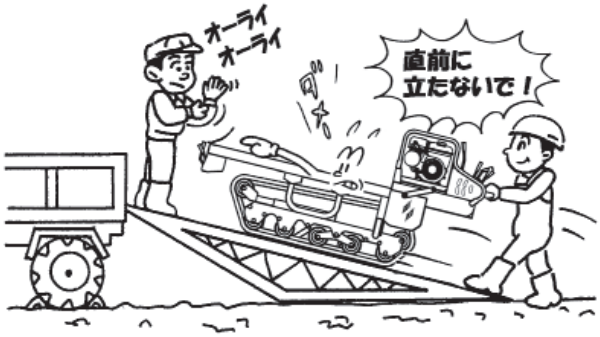
⚠警告

■積込み・積降し作業中、機械の前には絶対立たない

トラックなどからの積込み・積降し作業中は、機械の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故をまねくおそれがあります。

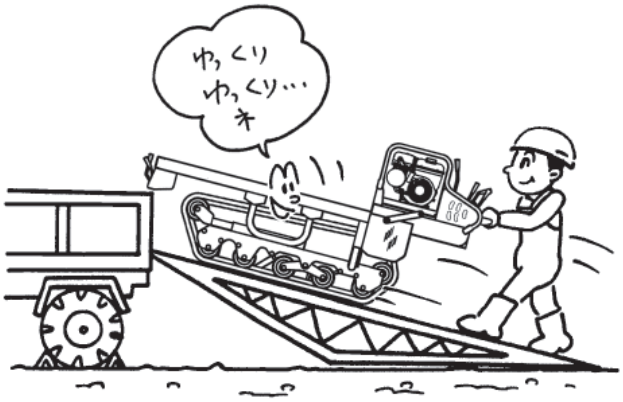


■登るときは前進、降りるときは後進でおこなう

積込みの場合「**前進１**」、積降しの場合は「**後進Ｒ１**」の低い速度で行ってください。あゆみ板とトラックの荷台の継目を越えるときは、急に重心が変わりますので、注意して走行をしてください。

【守らないと】

バランスを崩し転落などの事故を引きおこすおそれがあります。

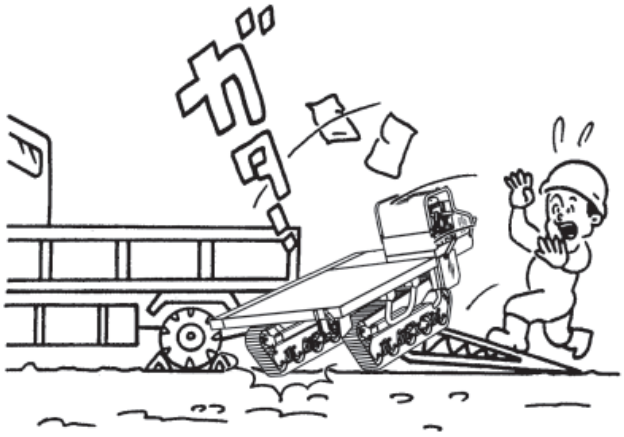


■あゆみ板の上ではサイドクラッチレバー操作厳禁

あゆみ板の上で進路変更をすることがないように前もって進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるための、サイドクラッチレバー操作は絶対にしないでください。方向を直す場合は、平坦な場所に戻ってから行ってください。

【守らないと】

転落などの事故の原因となります。



■ロープでトラックに確実に固定

トラックに載せて移動するときは、本機のエンジンを停止させ駐車ブレーキを掛け、燃料コックを「**Ｃ（閉）**」にしてから動かないように車止めをし、強度の十分あるロープでトラックに本機を確実に固定してください。

【守らないと】

トラックから本機が転落したりして、事故をまねくおそれがあります。



６．格納をするとき

⚠危険



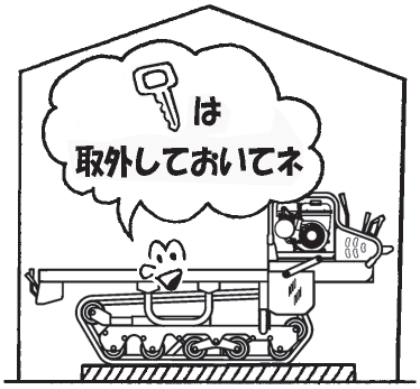
■シートは機械が十分に冷えてから

エンジンを停止しエンジン・マフラーなどの高温部が十分に冷えてからシートを掛けてください。
長期格納時は、燃料タンク・気化器内の燃料を抜取ってください。

【守らないと】

火災事故を引きおこすことがあります。

⚠警告



■長期格納時はキーを外す

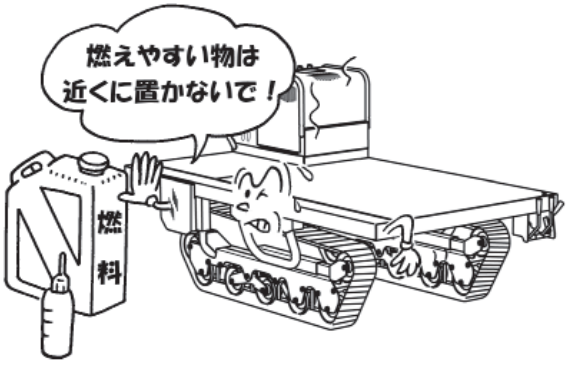
（セルモータ仕様）

長期間使用しないで格納する場合は、十分な運転により、バッテリを充電をしてください。キーは抜取り保管してください。

【守らないと】

思わぬ傷害事故の原因となるおそれがあります。

⚠注意



■機械の近くに可燃物を置かない

機械を格納するときは、平坦で安定した場所に置き、エンジンを停止してください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。
近くに燃えやすいものがないか、また、燃えやすいものがあれば取除いてください。

【守らないと】

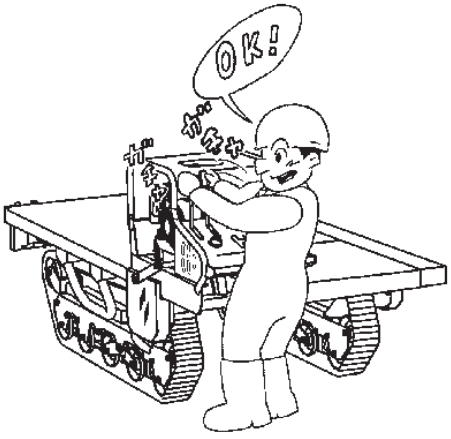
機械が動きだしたり、火災事故を引きおこすことがあります。

■長期格納時はクラッチを切る

長期間格納する際には、必ず走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にしてください。

【守らないと】

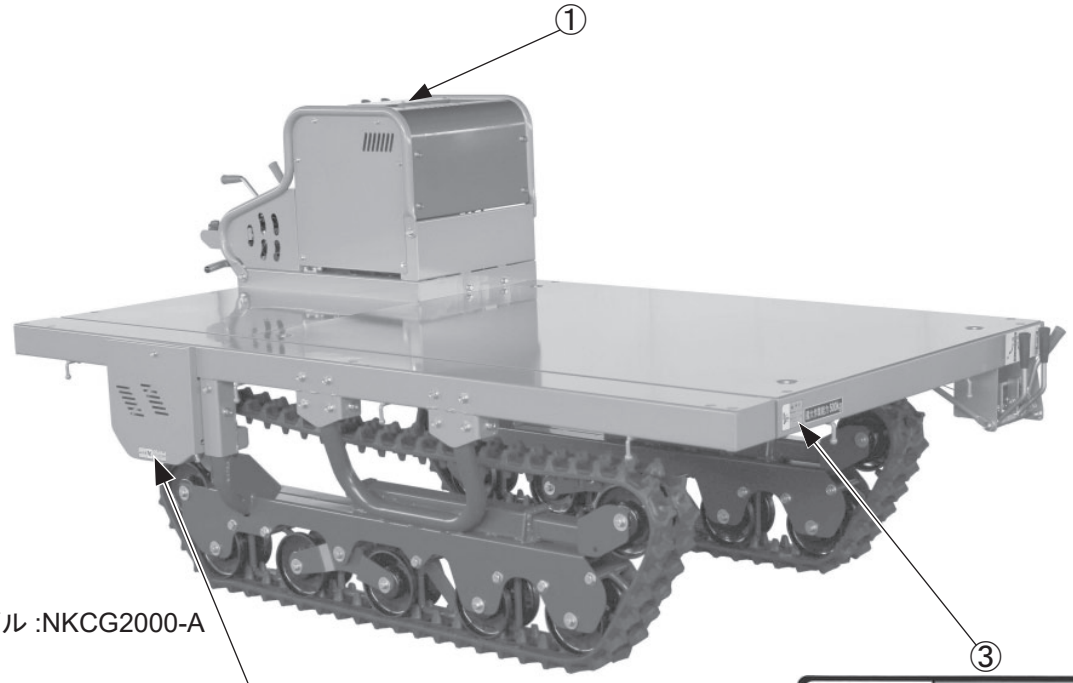
クラッチが切れなくなり、事故を引きおこすおそれがあります。



７．安全銘板の貼付け位置

安全に作業していただくために安全銘板の貼付け位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損がないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。





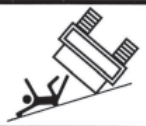




※No.２は反対側にも貼付けあります。
　No.６はセルモータ仕様のバッテリ付属の銘板となります。

No.	部品番号	品名
1	ＫＷ５６２５６ＡＡ	注意（マフラー）・警告（排ガス）・危険（火気厳禁）
2	１Ｃ６７００－８５６７０	注意（カバー類）
3	１Ｎ３５２０－９３２１０	警告（可動部）
4	１Ｎ３５０３－９３０５０	警告・注意一式（運搬機用）
5	１Ｎ３５６１－９３０９０	危険一式（運搬機固定荷台用）
6	バッテリパック付属品	危険（バッテリパック）

⚠警　告



●急な坂道ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。●思わぬ方向に本機が旋回し転落などの事故によりケガをするおそれがあります。●下り坂ではエンジンブレーキを利用し、いつでもブレーキが掛けられる姿勢で運転してください。●最大作業能力以上の積載はしないでください。●積荷は確実にロープを掛けて固定してください。●積荷は高く積まないでください。●機械の破損や積荷のバランスが崩れてケガをするおそれがあります。●本機輸送時の積降ろしは平坦で堅固な場所に、強度・長さ・幅の余裕のあるアユミ板を使用し低速で行ってください。アユミ板上での方向転換はしないでください。本機はトラックに確実に固定してください。●転落・転倒などの事故によりケガをするおそれがあります。

⚠警告



●エンジン始動時はかならず走行クラッチを切ってください。●本機が急発進しケガをするおそれがあります。

⚠注　意



取扱説明書をよく読んで
安全に作業してください。

●機械を他人に貸すときは取扱方法をよく説明し使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。●始業点検・定期点検は必ず実施してください。（各、摺動部・摩擦部には注油等をして作動確認をしてください。）●公道を走行しないでください。小型特殊自動車の認定を受けておりません。●走行中は荷台に乗って運転したり人を乗せないでください。転落などによりケガをするおそれがあります。●急な発進・停止・旋回や速度の出しすぎ禁止。●機械から離れるときには、平坦で安定した場所に置き、エンジンを止め、クラッチを切りブレーキを掛けてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず歯止めをしてください。●格納時は、エンジン、排気管が完全に冷えてから、燃えやすいものが近くに無い場所に格納してください。

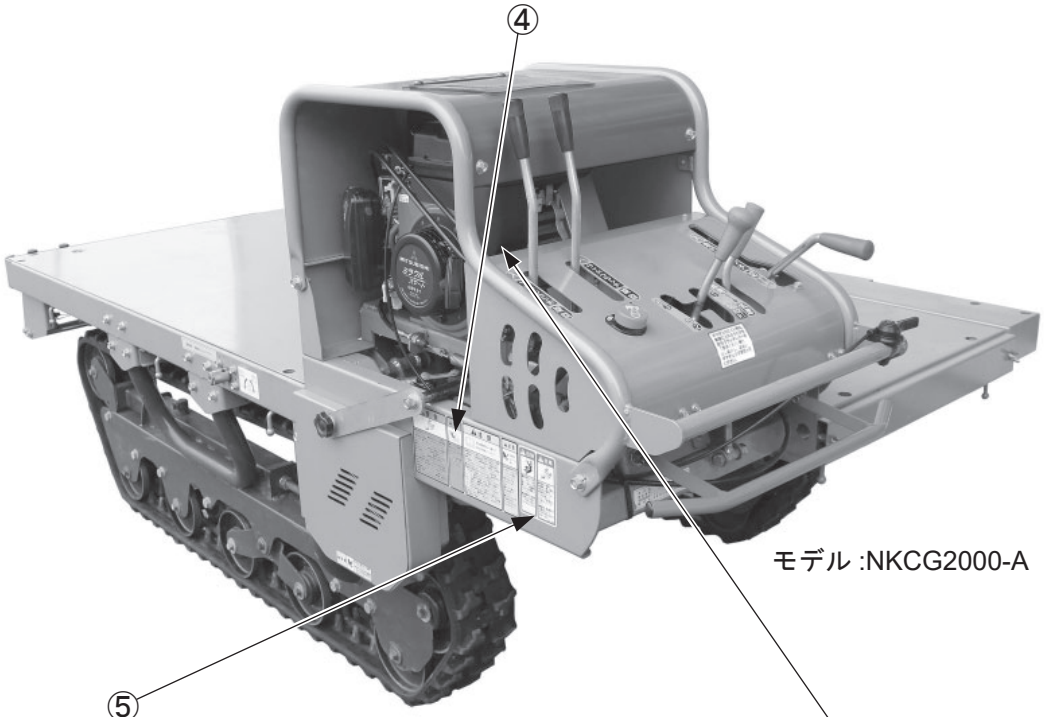
⚠注意



点検時
エンジン
停止

●点検整備をするときは、かならずエンジンを停止してください。●ケガをするおそれがあります。●カバー類は常に装着してください。●はずしたままで運転するとケガをするおそれがあります。

1N3503-93050



モデル :NKCG2000-A

⚠危険



●後進するときは、スピードを落とし足元に注意して、障害物がないか確認してください。●障害物と本機の間にはさまれてケガをするおそれがあります。

⚠危険



●坂道、路肩、障害物、乗り越え、溝のある場所、軟弱地などでは十分注意して、スピードを落として走行してください。●転落・転倒などの事故によりケガをするおそれがあります。

1N3561-93090

⚠危　険

●発火、感電、発熱、破損の恐れあり
・工具等でショートやスパークをさせない
・このバッテリーを指定の用途以外に使用しない

2章 保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

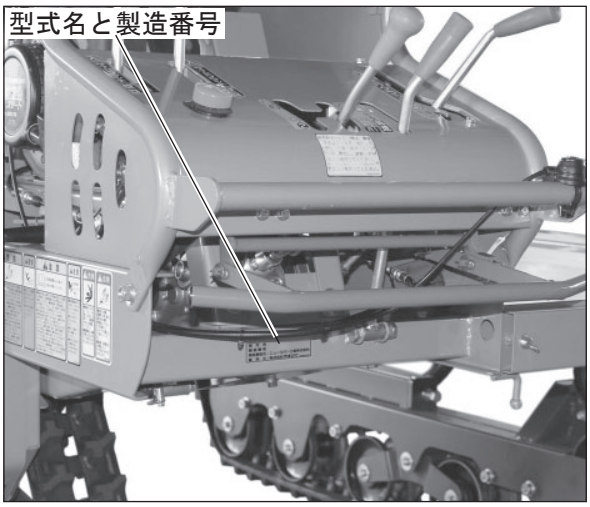
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

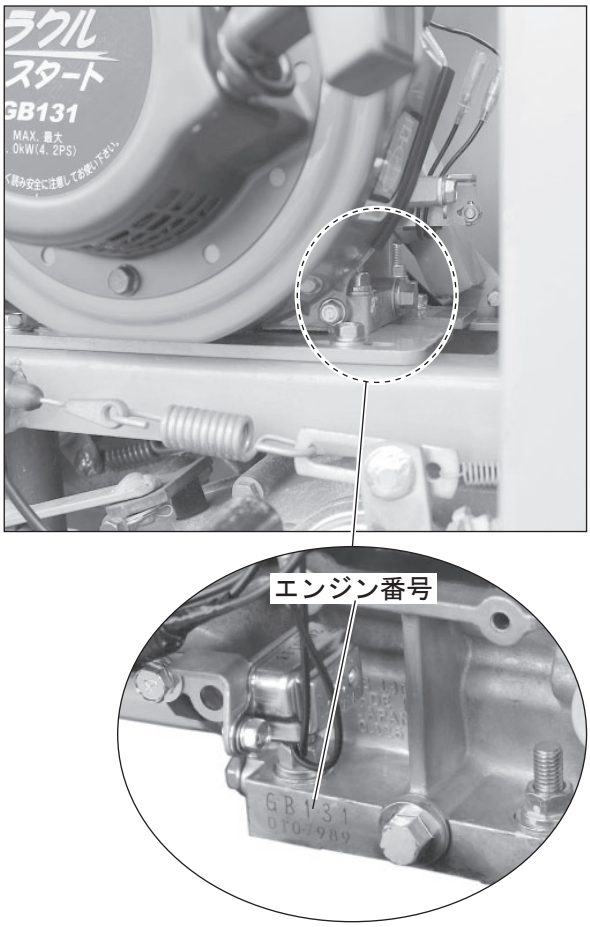
アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに点検・処置をしても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買上げいただいた販売店までご連絡ください。

〈連絡していただきたい内容〉

- ●型式名と製造番号
- ●エンジンの場合はエンジン番号
- ●ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- ●どのくらい使用されましたか？
  （約□□□時間使用後）
- ●不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。





〈補修部品の供給年限について〉

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

機械の廃棄について

機械を廃棄する場合、購入された販売店もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。
法律に違反する行為は絶対にしないでください。
詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

モデル :NKCG2000-ALB

●走行クラッチレバー
エンジンからの動力を伝えたり、駐車ブレーキに使用します。ブレーキと連動しています。
低速・高速の選択ができます。

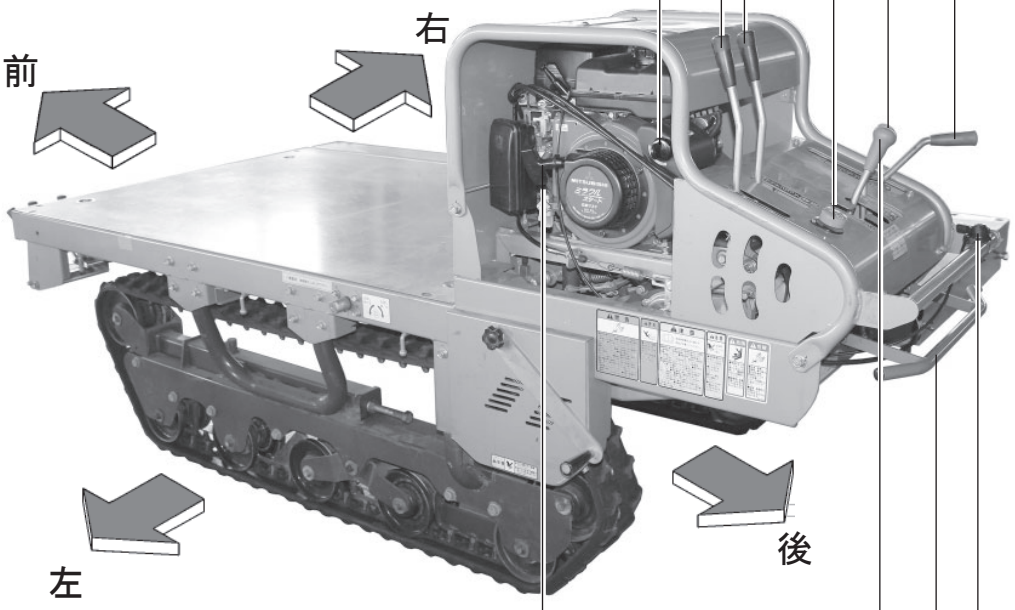
●副変速レバー
低速・高速の切換えに使用します。

●エンジンストップスイッチ
エンジンの始動・停止に使用します。

●右サイドクラッチレバー
レバーを引くと右に旋回します。

●左サイドクラッチレバー
レバーを引くと左に旋回します。

●キースイッチ
（セルモータ仕様）
エンジンの始動・停止に使用します。



●リコイルスタータ
リコイルスタータ仕様は、エンジンの始動に使用します。
セルモータ仕様は、バッテリの電圧不足のときに使用します。

●主変速レバー
主変速位置を変えるときに使います。

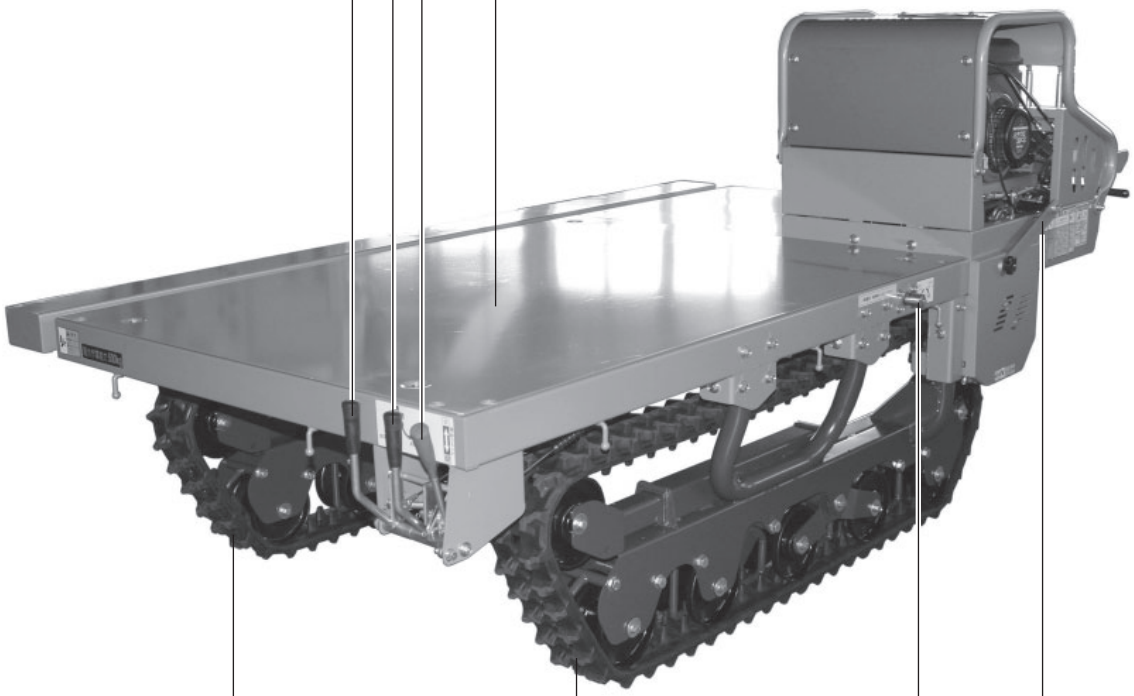
●補助停止レバー
押すと走行を停止します。

●アクセルレバー
エンジンの回転を速くしたり、遅くしたりするのに使用します。

●前サイドクラッチレバー
レバーを引くと引いた側に旋回します。

●補助クラッチレバー
エンジンからの動力を伝えます。

●荷台
荷物を載せる台です。



●クローラ
走行用のゴム履帯です。

●荷台幅調整
荷台の幅を調整するときに使います。

●ハンドル
荷台幅の調整に使用します。

1．運転前の点検

⚠危険

●燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

●エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。

●燃料補給後は、燃料キャップを確実に締めこぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

●燃料ホースが破損していると、燃料もれをおこしますので必ず点検してください。守らないと、火傷や火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

●点検、整備は、交通の危険がなく機械が倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に車止めをした上で行ってください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

●マフラー・エンジン回りのゴミは取除いてください。またマフラーに亀裂や腐食などの異常がないか点検してください。火災事故やオーバーヒートを引きおこすことがあります。

⚠注意

●点検、整備を行うときは、本機のエンジンを停止させてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。また、高温部分が十分に冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてください。守らないと機械に巻込まれて、傷害事故をおこすおそれがあります。

●感電ショック防止のため、運転中はプラグコード、プラグキャップ、点火プラグ部に触れないでください。

安全で快適な作業を行うには、本機を使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行ってください。

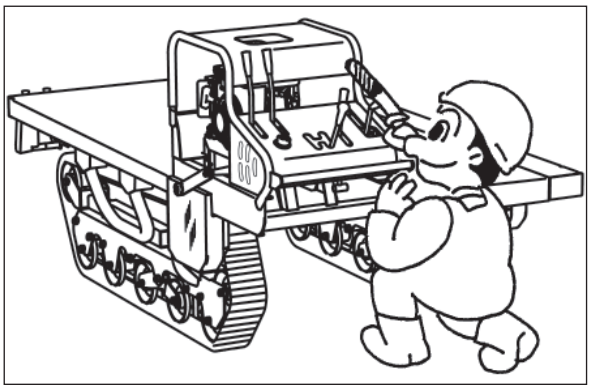
①前日の異常箇所

●前日の作業中に異常を感じたところがあれば作業に支障がないか点検します。

②本機のまわりを回ってみて

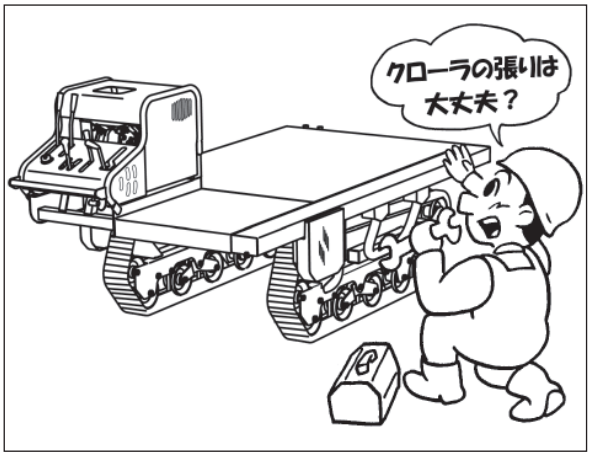
●各部の変形・損傷・汚れ

●エンジンオイルの量と汚れ、油もれ　……49



●走行ミッションオイルの油もれ　……50

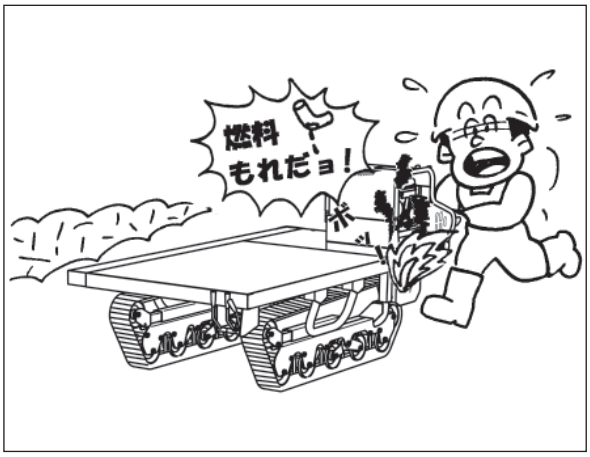
●クローラの張り具合・磨耗度合・損傷　……55



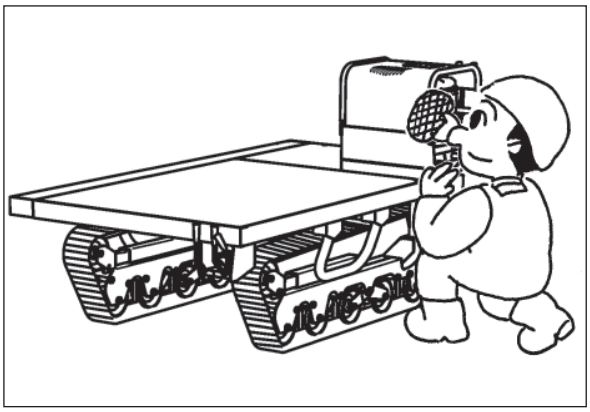
●トラックローラ取付けボルト・ナットのゆるみ　……59

●機体各部の損傷、ボルトのゆるみ　……59

●燃料の量と燃料もれ、燃料ホースの損傷
……29、52

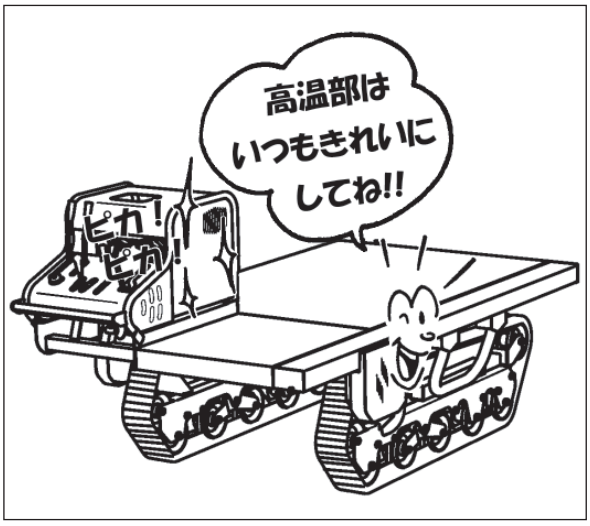


●エアクリーナの汚れ　……51



●マフラーの亀裂や腐食などの異常

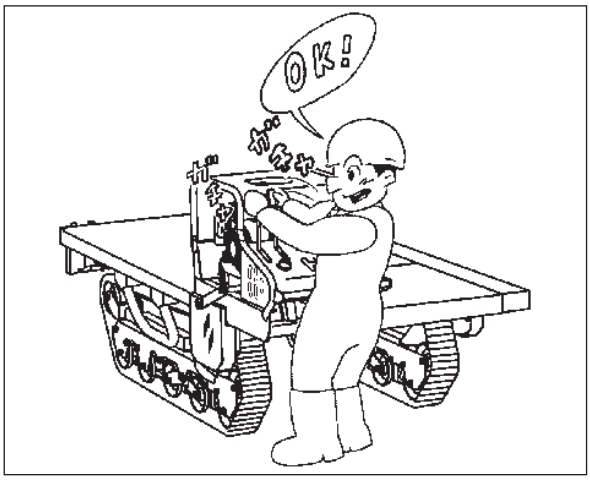
●マフラーなどの高温部分のほこりやゴミ



●配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ
……52

③レバーを操作してみて

●各レバーの遊び量、作動状態　……55 ～ 58



④エンジンを始動してみて

●エンジン始動後の異音

●排気ガスの色

●補助停止レバーの作動状態

●エンジンストップスイッチの作動状態



２．燃料の点検・給油のしかた

⚠危険

●燃料をあふれない程度に入れてください。機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれることがあります。万一、引火した場合、火災のおそれがあります。

点検

燃料タンク上面の燃料ゲージで燃料の残量を調べ、不足している場合は、上部の給油口から補給してください。



給油

給油は**「自動車用無鉛ガソリン」**をあふれないように入れてください。燃料補給後は燃料キャップを確実に締めてください。

［重要］

●ガソリンはポリタンクで保管しないでください。樹脂成分の溶解・紫外線透過により変質しやすくキャブレタ部品の穴詰まりなどのトラブルの原因となります。ガソリンを保管する場合は、ガソリン専用の鋼製燃料タンクで保管してください。

●ガソリンは常に新しいものを使ってください。購入後、１ヶ月以上経過したガソリンの使用は気化器部に粘着物が付着する原因となり、運転不調をおこすおそれがあります。

３．エンジンの始動・停止のしかた

⚠警告

●エンジン始動時は、必ず走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にして、周囲の安全を確認し、人や動物を近づけないでください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

●閉切った室内では、エンジンの始動および暖機運転はしないでください。エンジンは風通しのよい屋外で始動してください。やむをえず屋内で始動する場合は、十分に換気をしてください。守らないと、排気ガスによる中毒をおこし、死亡事故をおこすおそれがあります。

●マフラーやエアクリーナカバーを外したままエンジンを運転しないでください。守らないと傷害事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

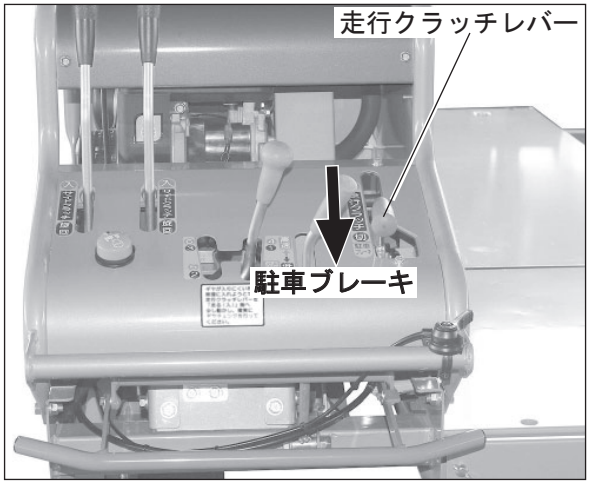
●機械を使う前と後には、必ず点検、整備をしてください。特に走行クラッチレバー・主変速レバーなどの操縦装置は、確実に作動するように点検、整備をしてください。守らないと、傷害事故をおこすおそれがあります。

●暖機運転中は、駐車ブレーキを掛けてください。守らないと、何らかの原因で本機が走りだし事故をおこすおそれがあります。

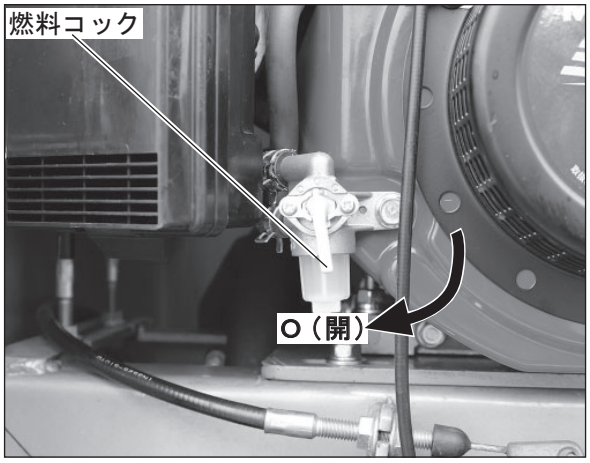
●運転中、エンジン、マフラーは高温になりますので触らないでください。また、エンジンが停止しても、すぐに手を触れないでください。エンジンやマフラーなどの高温部で火傷のおそれがあります。

エンジンの始動のしかた

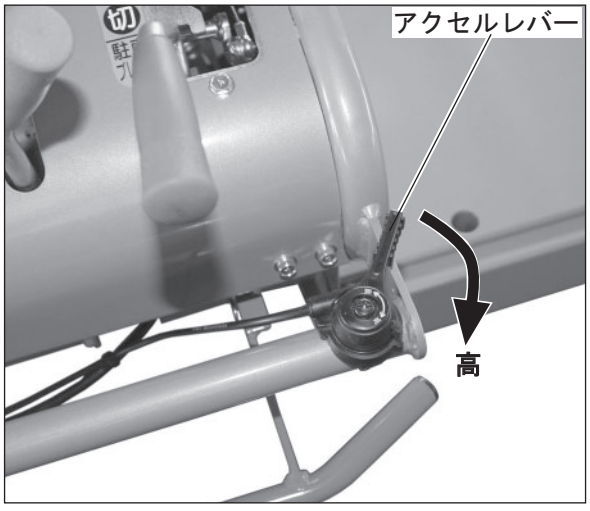
①走行クラッチレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にします。



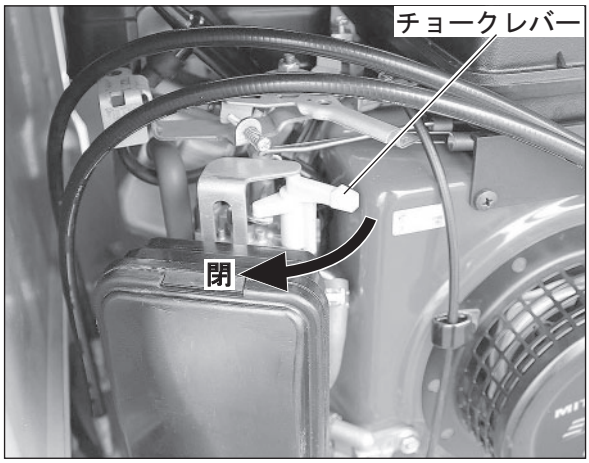
②燃料コックを「**O（開）**」にします。



③アクセルレバーを高側に少し移動させます。



④チョークレバーを「**閉**」位置にします。

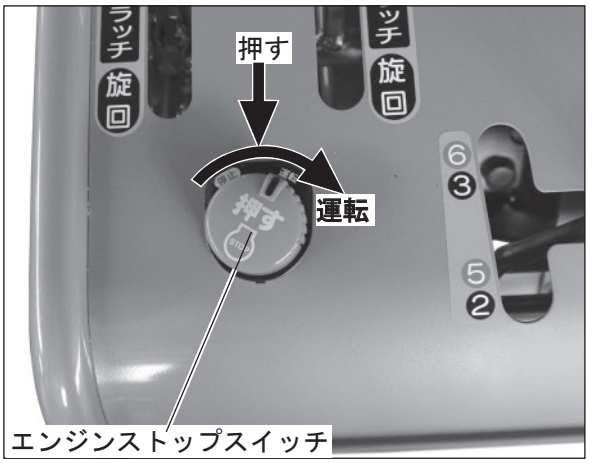


［重要］

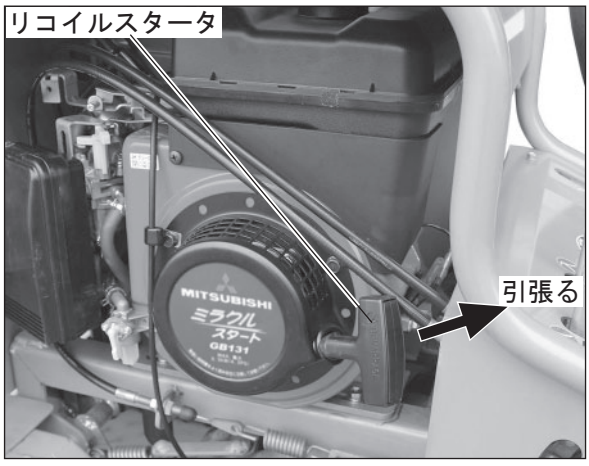
●エンジン停止後、すぐに始動するときは、チョークレバーを「閉」位置にしないでください。

リコイルスタータ仕様

⑤エンジンストップスイッチを押しながら「**運転**」位置にします。



⑥リコイルスタータを握りゆっくり引張ってください。



⑦エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークレバーを徐々に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

※エンジン始動後は、アクセルレバーを**「低」**位置に戻し、約５分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。
（エンジンの暖機運転）

［重要］

●冬期など外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング（回転ムラ）をおこす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを高速側と低速側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

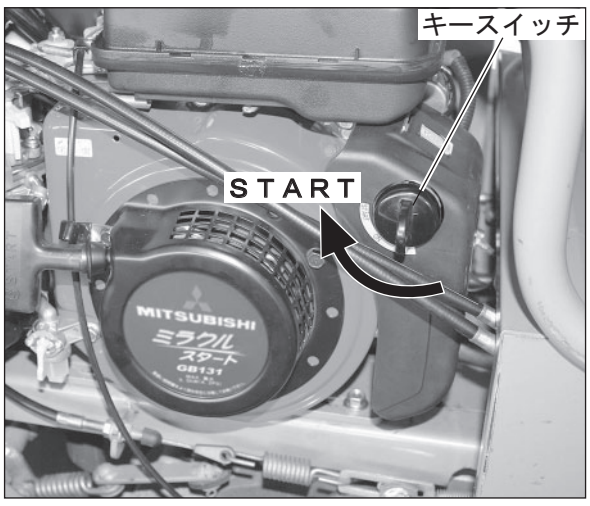
●リコイルスタータを１～２回操作しても始動しないとき、そのまま何回も引張っていますと燃料の吸い過ぎとなり始動困難となりますのでチョークレバーを元に戻してからリコイルスタータを引張ってください。

●走行クラッチレバーが**「切」**位置にないと、始動安全スイッチが働きエンジンを始動することが出来ません。走行クラッチレバーは、確実に**「切」**位置にしてください。

セルモータ仕様

※セルモータ仕様の場合は、エンジン出荷時のバッテリ充電容量は、約半分の状態です。初回運転時は十分な運転により充電を行ってください。（約２５分）

⑥キースイッチを「ＳＴＡＲＴ」位置までまわします。



⑦エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークレバーを徐々に戻します。最後には必ず完全に戻してください。

※エンジン始動後は、アクセルレバーを**「低」**位置に戻し、約５分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。
（エンジンの暖機運転）

※走行クラッチレバーが**「入」**位置のときに、キースイッチを「ＳＴＡＲＴ」位置にするとエンジンは始動しませんが、本機が動く場合がありますので、必ず走行クラッチレバーが**「切」**位置か**「駐車ブレーキ」**位置になっていることを確認してから始動させてください。

［重要］

●約５秒以上セルモータを使ってもエンジンがかからない場合、いったんキースイッチを切り、１分間以上バッテリを休ませてから、再び始動させてください。

●冬期など外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング（回転ムラ）をおこす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを高速側と低速側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

●エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「ＳＴＡＲＴ」位置にしないでください。

●５秒以上まわし続けたり、短い休止時間で断続的にまわすことはバッテリパックが発熱し内部の保護機能が作動しますのでおやめください。

●保護機能が作動したバッテリパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
（Ｐ５３参照）

●低温時はバッテリの出力特性が弱くなるため始動できない場合があります。その際は、リコイルで始動してください。

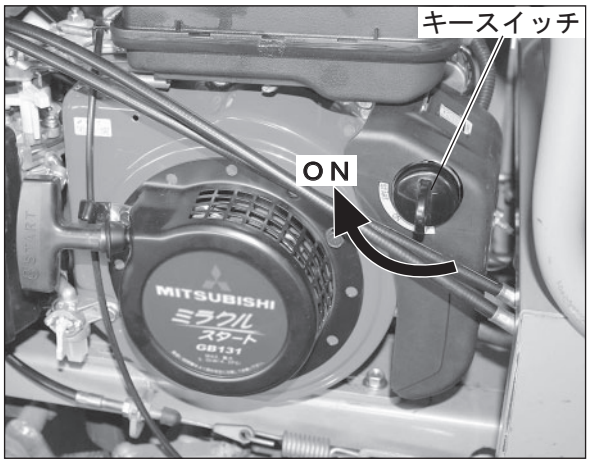
リコイルによる始動のしかた

セルモータ仕様

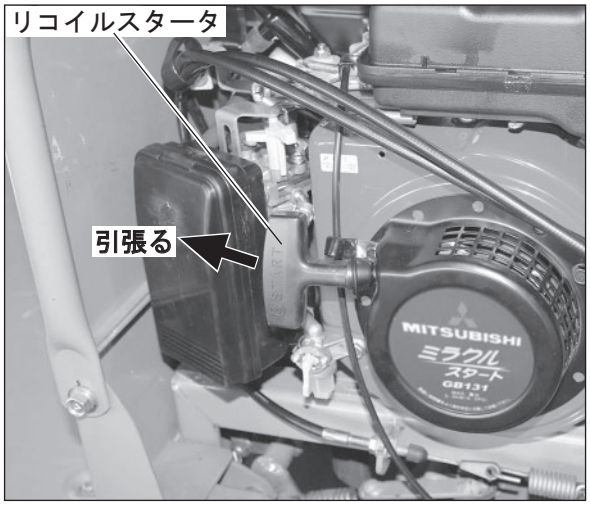
バッテリの電圧不足でセルスタートできない場合は、次の要領で始動してください。

①「エンジンの始動のしかた」の①～⑤までの操作をします。

②キースイッチを「ON」位置にします。



③リコイルスタータを握り圧縮位置まで軽く引きその位置から勢いよく引張ってください。



※走行クラッチレバーが**「入」**位置のときに、リコイルスタータでエンジンを始動するとエンジンは始動しませんが、本機が動く場合がありますので、必ず走行クラッチレバーが**「切」**位置か**「駐車ブレーキ」**位置になっていることを確認してから始動させてください。

④エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークレバーを徐々に戻します。最後には必ず一杯戻してください。

※エンジン始動後は、アクセルレバーを**「低」**位置に戻し、約５分間は、負荷を掛けずにエンジンをかけたままにしておいてください。
（エンジンの暖機運転）

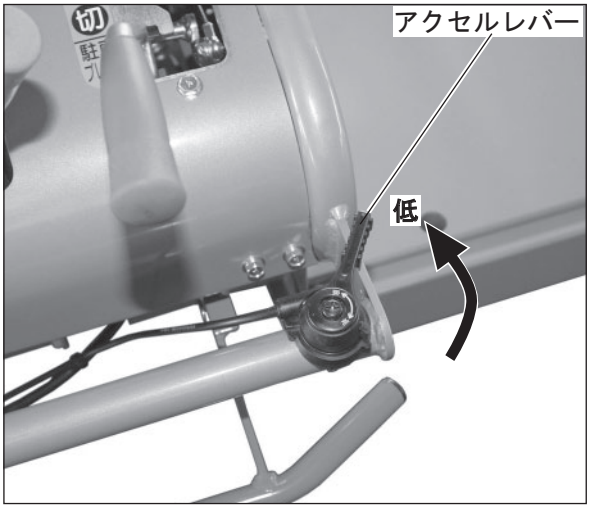
［重要］

●冬期など外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング（回転ムラ）をおこす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを「高速」位置と「低速」位置の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

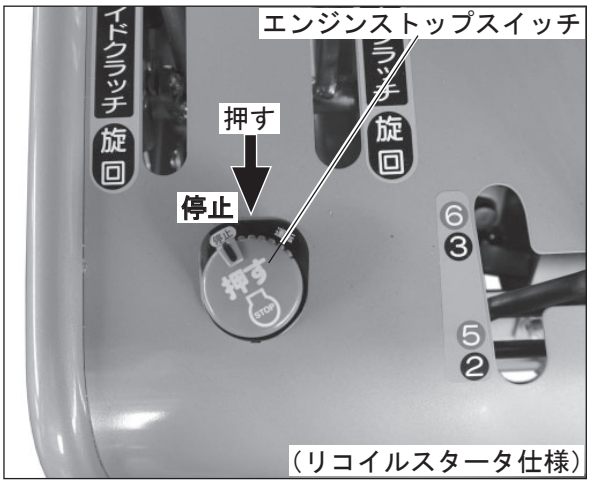
●リコイルスタータを１～２回操作しても始動しないとき、そのまま何回も引張っていますと燃料の吸い過ぎとなり始動困難となりますのでチョークレバーを元に戻してからリコイルスタータを引張ってください。

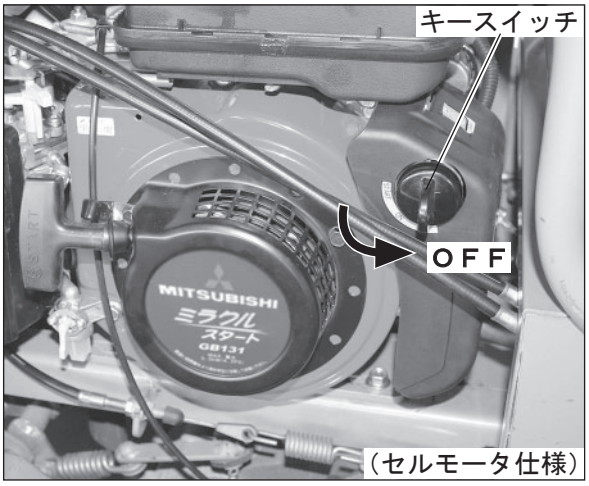
エンジンの停止のしかた

①アクセルレバーを**「低」**位置にします。

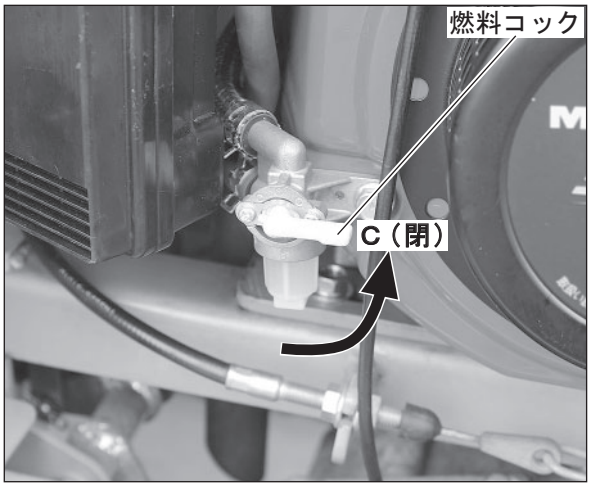


②リコイルスタータ仕様は、エンジンストップスイッチを押して「**停止**」位置にし、セルモータ仕様は、キースイッチを「**ＯＦＦ**」位置にしてエンジンを停止します。





③燃料コックを「**Ｃ（閉）**」にします。



４．発進・旋回・変速・停止のしかた

⚠危険

●発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回するときは、十分にスピードを落としてください。また坂道・路肩・凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。思わぬ事故の原因となります。

●急傾斜地での斜め走行はしないでください。横転して事故をまねくおそれがあります。

●後進時は、低速にし、後方に十分注意してください。転倒などによりけがをするおそれがあります。

⚠警告

●発進するときは、各レバーの位置と周囲の安全を確かめて発進してください。守らないと思わぬ事故、けがをまねくおそれがあります。

●急な下り坂では、サイドクラッチレバーの操作をしないでください。思わぬ方向に機械が旋回して転落などの事故をまねくおそれがあります。

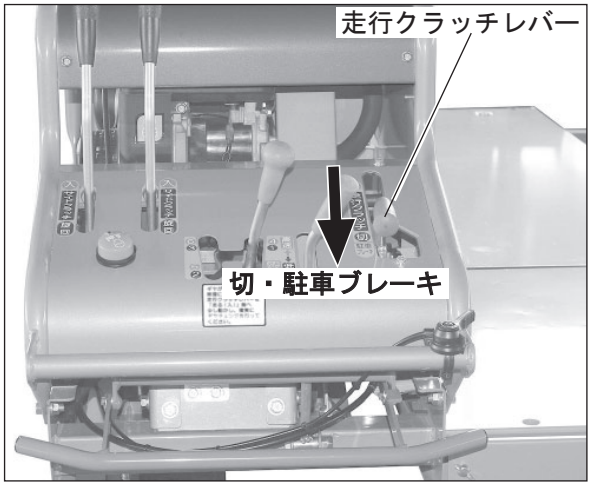
⚠注意

●小型特殊自動車の型式認定を受けていません。法令により公道走行は禁止されていますのでしないでください。

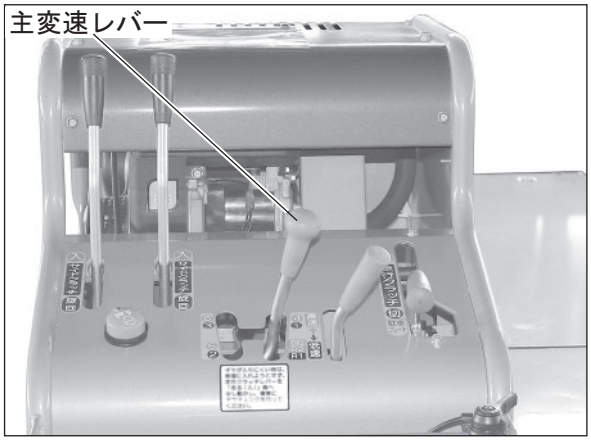
●本機から離れるときは、平坦で堅固な安定した場所に置き、必ず走行クラッチレバーを「**駐車ブレーキ**」位置にし、エンジンを止め、車止めをしてください。守らないと本機が動きだし、事故をおこすおそれがあります。

発進のしかた

①走行クラッチレバーを「**切**」位置、または「**駐車ブレーキ**」位置にします。

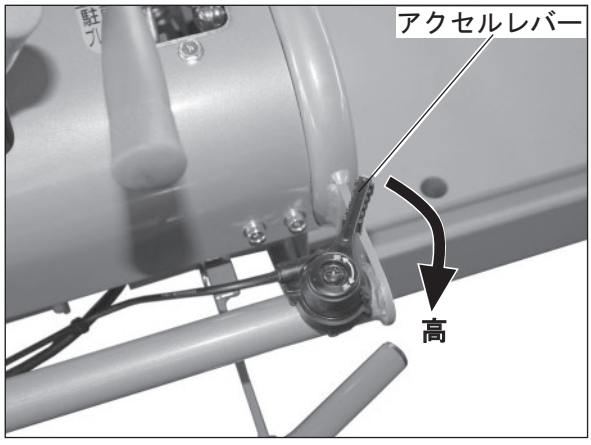


②主変速レバーで、前進または後進の希望の位置を選びます。

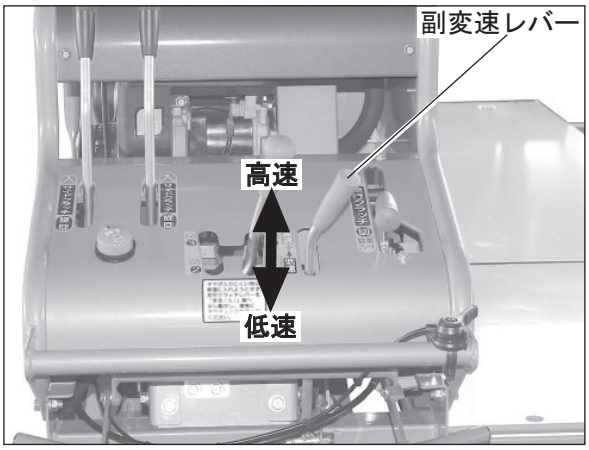


※主変速レバーを動かすと、数字で示した位置が変速位置を示します。

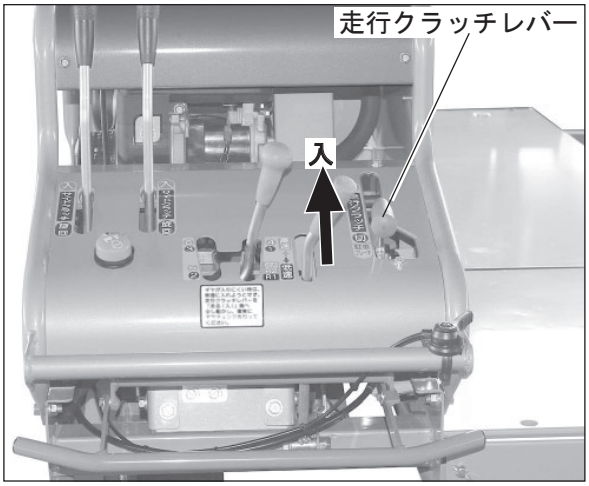
③アクセルレバーでエンジンの回転を少し上げます。



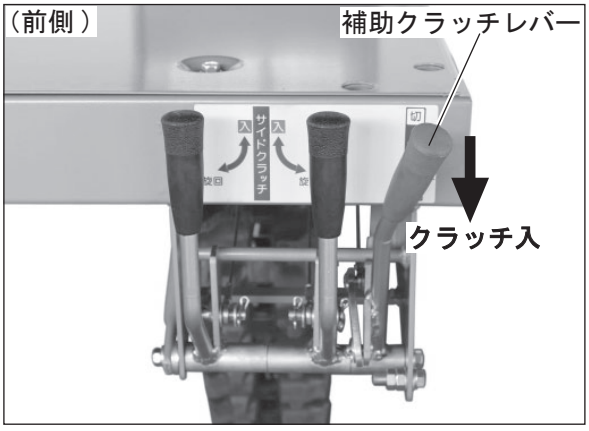
④副変速レバーを「**低速**」位置か「**高速**」位置にします。



⑤走行クラッチレバーを徐々に「**入**」位置にし、ゆっくり発進します。



※エンジン側の走行クラッチレバーが「切」位置になっているときに、前側の補助クラッチレバーを操作しても発進することができます。走行クラッチレバーを下に下げると「入」位置となり走行します。



［重要］

●**エンジン側の走行クラッチレバーが「駐車ブレーキ」**位置になっているときには、補助クラッチレバーは操作しなでください。機械の故障の原因になります。

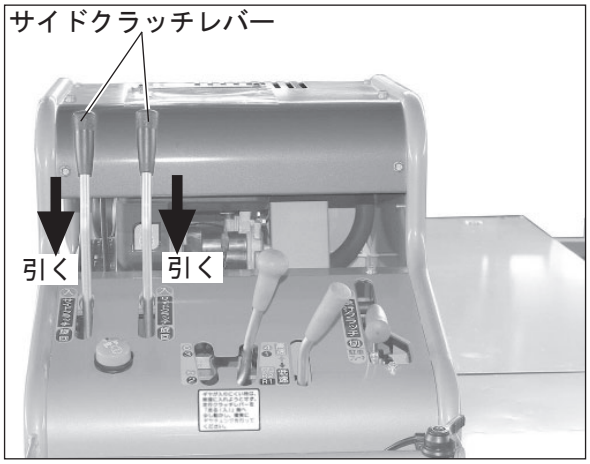
●前側の補助クラッチレバーを「切」位置にしてもブレーキは効きません。

⚠注意

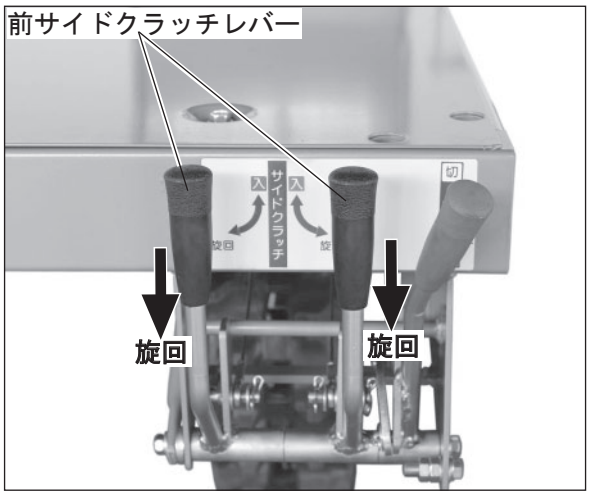
●必ず変速位置を確認してから操作をしてください。守らないと、思わぬけがをするおそれがあります。

旋回のしかた

安全を確認してから、旋回したい方のサイドクラッチレバーを引くと旋回します。旋回後は、サイドクラッチレバーを放します。



※前側のサイドクラッチレバーを操作をしても旋回することができます。
サイドクラッチレバーを引くと、動かした側に旋回します。



変速のしかた

⚠警告

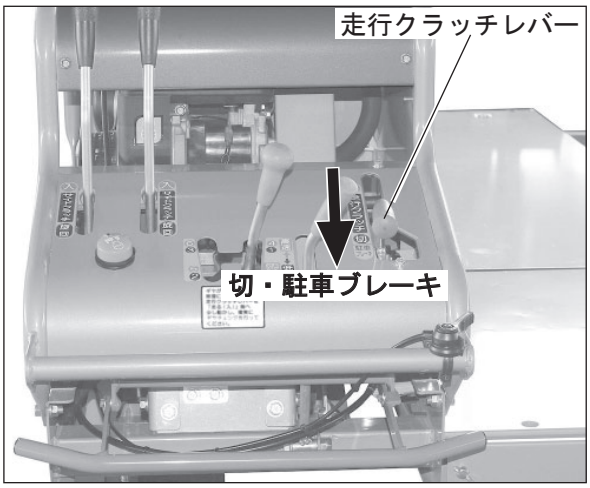
●主変速レバーを操作するときは、必ず走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にして操作してください。思わぬ方向に動きだし重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。

●急坂道やあゆみ板の上では、**「前進１」、「後進Ｒ１」**の低い速度で走行し、途中での変速はしないでください。暴走して事故をおこすおそれがあります。

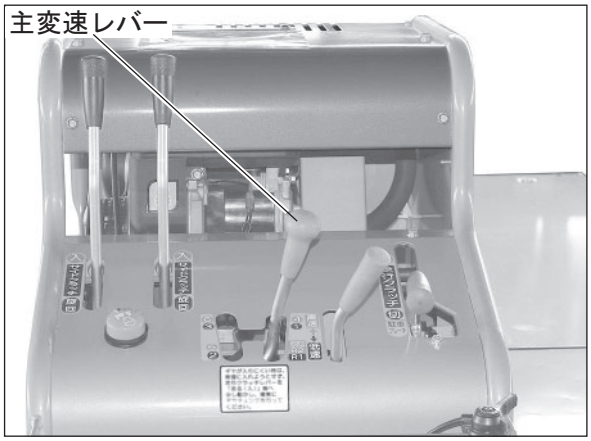
●後進する場合、アクセルレバーを**「低」**位置にし、急発進しないよう十分注意し、ゆっくり発進してください。「後進Ｒ２」位置のときは特に注意してください。

変速する場合は、次の要領で行ってください。

①エンジン側の走行クラッチレバーを**「切」**位置、または**「駐車ブレーキ」**位置にします。

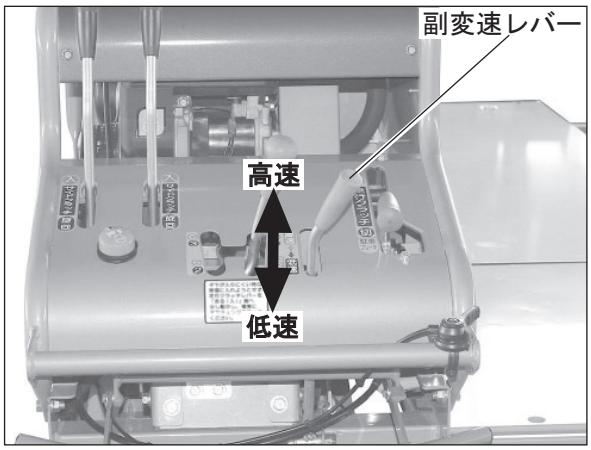


②主変速レバーを希望の位置に入れます。

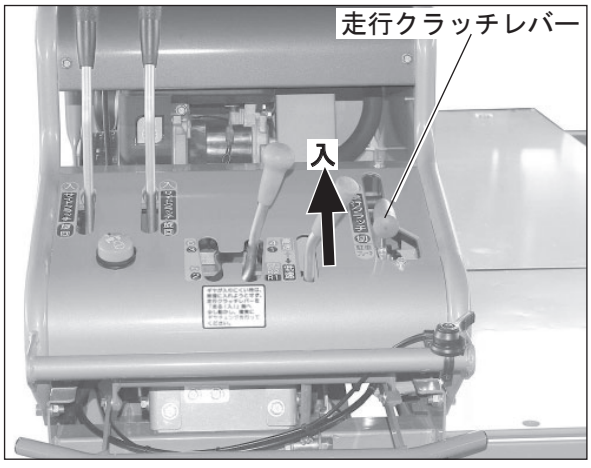


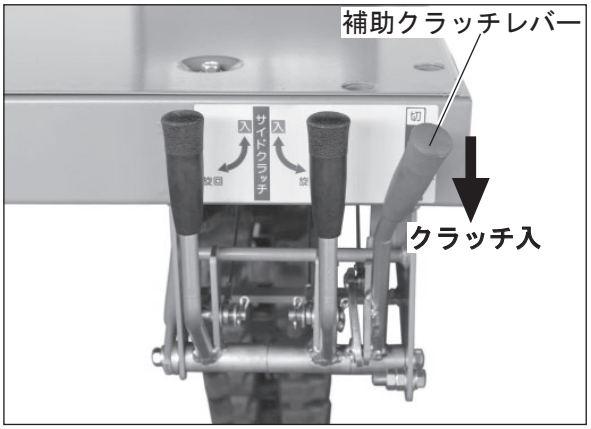
※主変速レバーを動かすと、数字で示した位置が変速位置を示します。

③副変速レバーを「低速」位置か「高速」位置にします。



④走行クラッチレバーか前側の補助クラッチレバーを徐々に「入」位置にし、ゆっくり発進します。





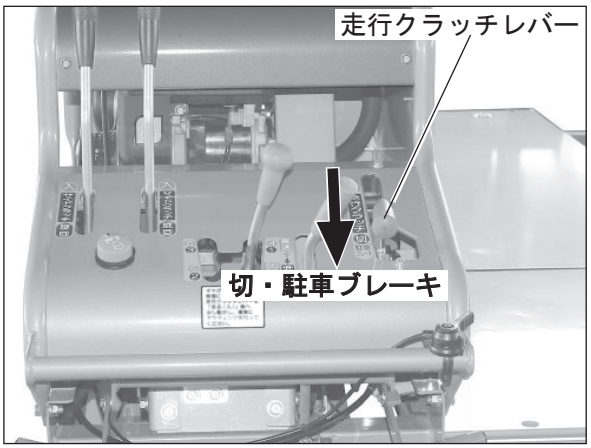
［重要］

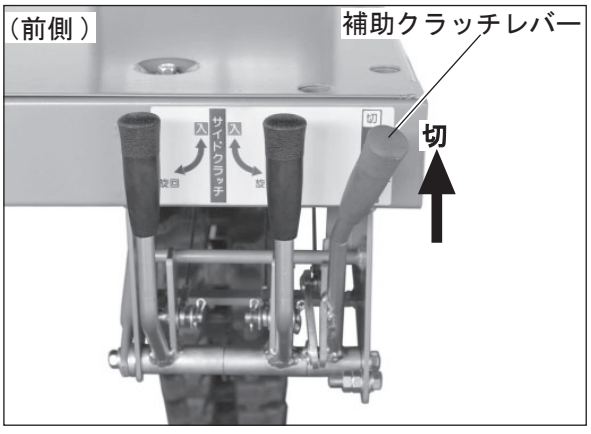
●主変速レバーが希望の位置に入りにくいときは、無理に入れずに、走行クラッチレバーを少し動かし、主変速レバーを希望の位置に入れてください。

●走行中の変速は、機械の破損の原因になりますのでしないでください。

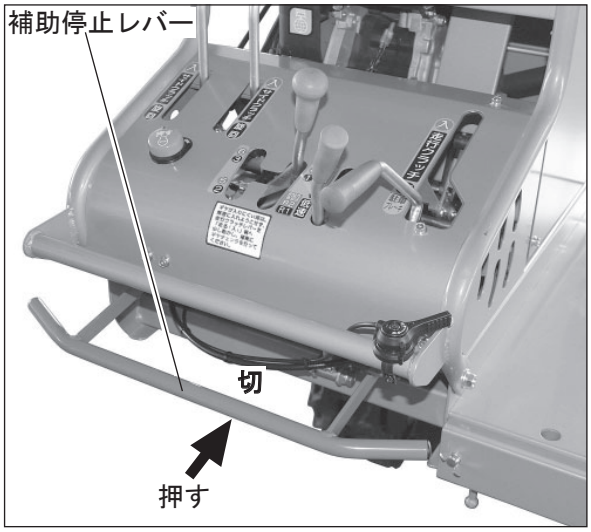
停止のしかた

①走行クラッチレバーか前側の補助クラッチレバーを「切」位置、または「駐車ブレーキ」位置にすれば本機は停止します。

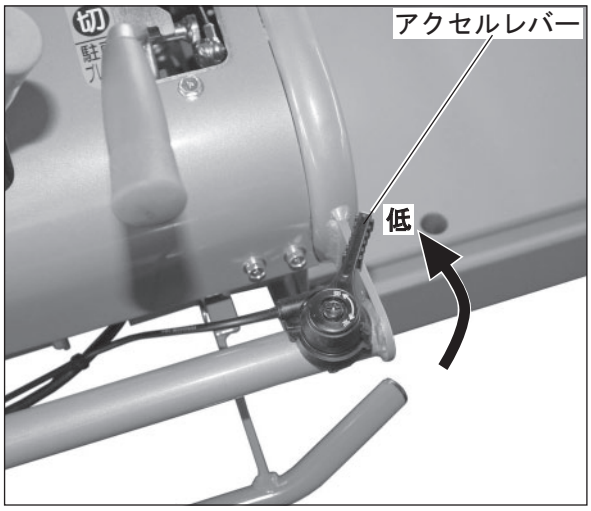




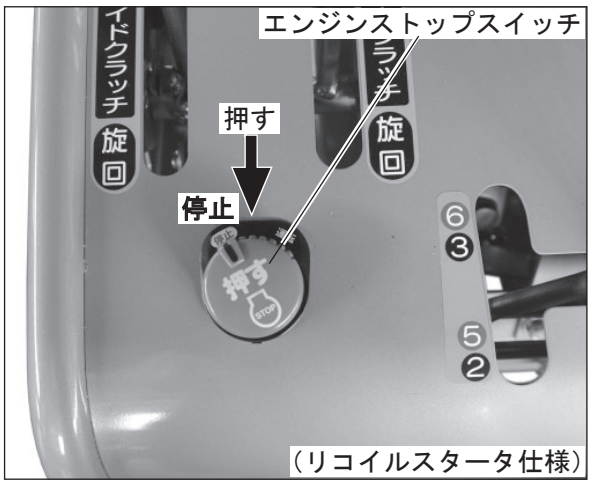
※補助停止レバーを押しても、走行クラッチレバーが**「切」**位置になります。

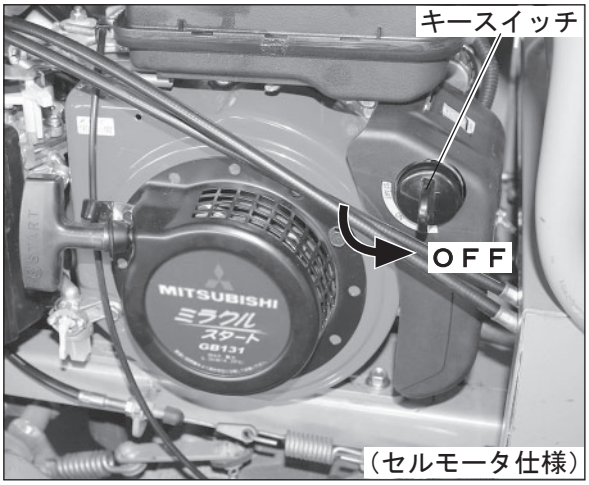


②アクセルレバーを**「低」**位置にします。

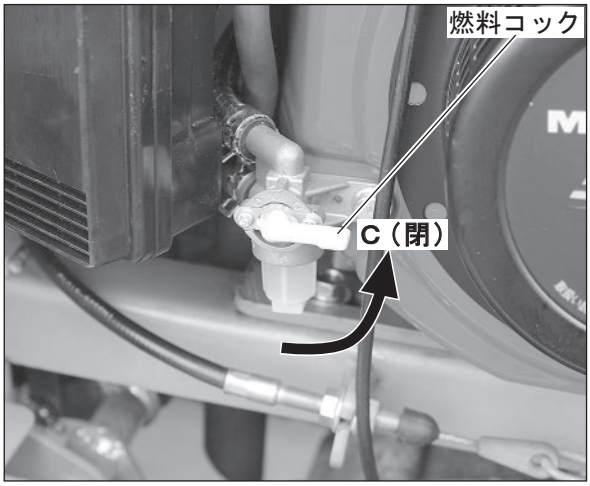


②リコイルスタータ仕様は、エンジンストップスイッチを押して**「停止」**位置にし、セルモータ仕様は、キースイッチを**「ＯＦＦ」**位置にしてエンジンを停止します。





④燃料コックを**「Ｃ（閉）」**にします。



［重要］

●前側の補助クラッチレバーを「切」位置にしても補助停止レバーで**「切」**位置にしても、ブレーキは効きません。最後には、必ず走行クラッチレバーが**「駐車ブレーキ」**位置になっているか確認してください。

駐車のしかた

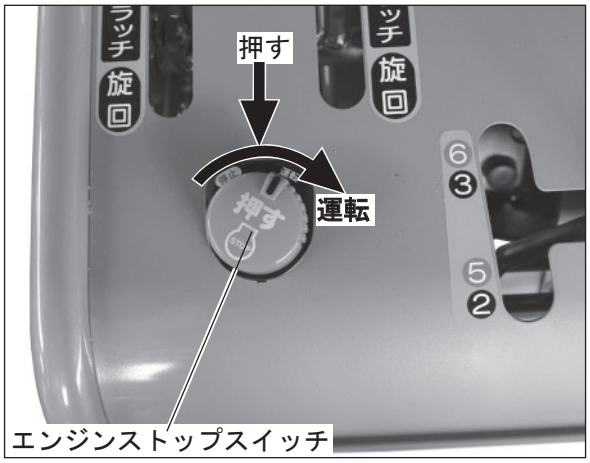
⚠注意

●駐車するときは、平坦で堅固な場所に必ず走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にして止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

エンジンストップスイッチ（緊急停止スイッチ）の使いかた

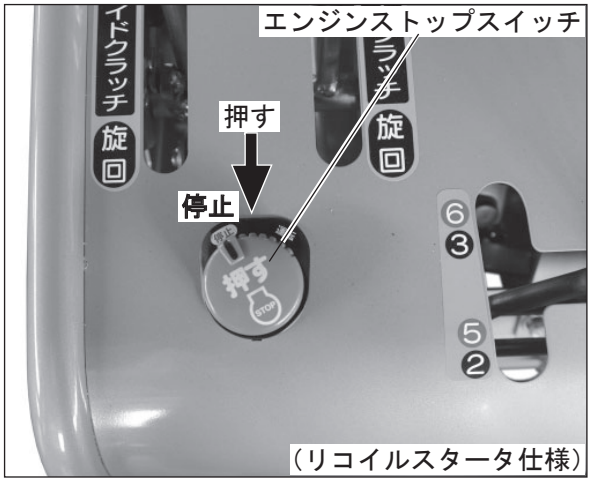
緊急停止のしかた

緊急にエンジンを停止させたい場合は、エンジンストップスイッチ（緊急停止スイッチ）を押すとエンジンが停止します。



解除のしかた

エンジンストップスイッチ（緊急停止スイッチ）でエンジンを停止させたあとは、安全を確認し、押しながらエンジンストップスイッチを回して「運転」位置にしてください。



［重要］

●エンジンストップスイッチ（緊急停止スイッチ）でエンジンを停止させた場合は、安全を確認してからエンジンのキースイッチを「切」位置にしてください。この操作を忘れるとバッテリーの消耗を早めます。（セルモータ仕様）

５．運搬のしかた

⚠警告

●最大作業能力以上は荷物を積まないでください。機械が破損して思わぬ事故をおこすおそれがあります。

●積荷が高くなると機械のバランスが崩れやすく、また障害物の確認ができませんので積載物を高く積まないでください。転倒・転落により思わぬ傷害事故の原因となります。

●積載物は確実にロープを掛けて固定してください。荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●積載物は荷台からはみ出さないようにしてください。荷崩れをおこし転倒・転落事故をおこすおそれがあります。

●坂道では積荷の重量を軽くして、安全に走行してください。

●坂道では荷物の積込み、積降しはしないでください。本機の前後バランスが崩れたり、荷崩れをおこし、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

⚠注意

●荷台には人を乗せたり、荷台に乗って運転したりしないでください。転落などにより、思わぬ傷害事故の原因になるおそれがあります。

荷台の調節のしかた

⚠警告

●荷台幅調節をするときは、可動部に近づかないでください。はさまれて傷害事故の原因になるおそれがあります。

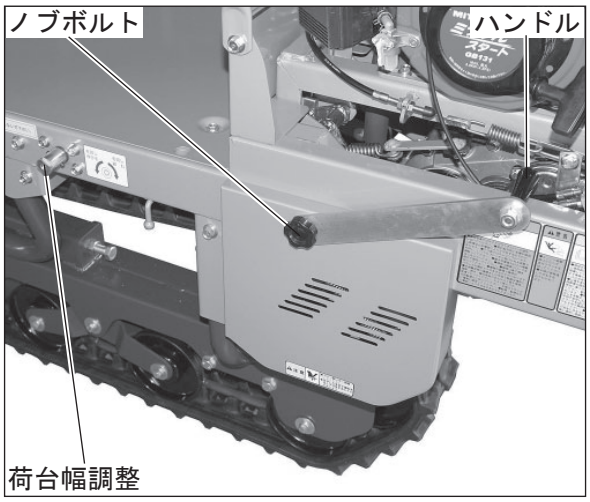
●荷台幅調節をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。機械が動きだし思わぬ事故をまねくおそれがあります。

⚠注意

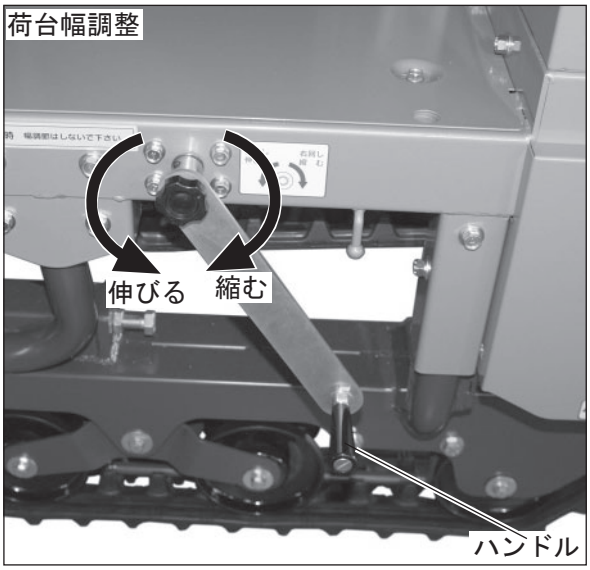
●荷台に荷物を積んだままで、荷台の幅調節はしないでください。機械が破損して思わぬ事故をおこすおそれがあります。

［荷台の幅調整のしかた］

①エンジンを停止し、エンジンの左横のハンドルのノブボルトをゆるめてを取外します。

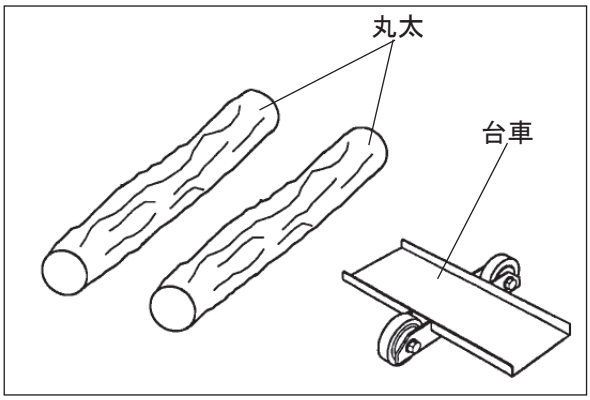


②荷台左横にある荷台幅調整にハンドルをノブボルトで取付け、右に回すと縮み、左に回すと伸びます。

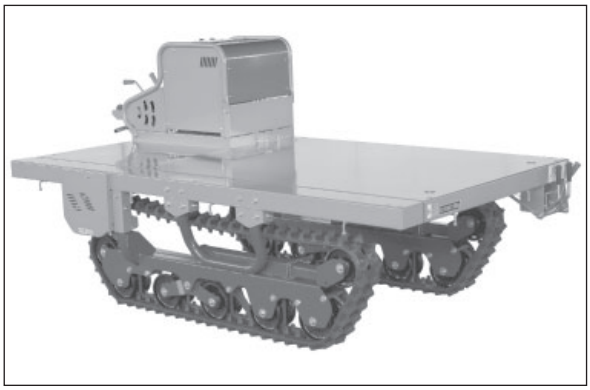


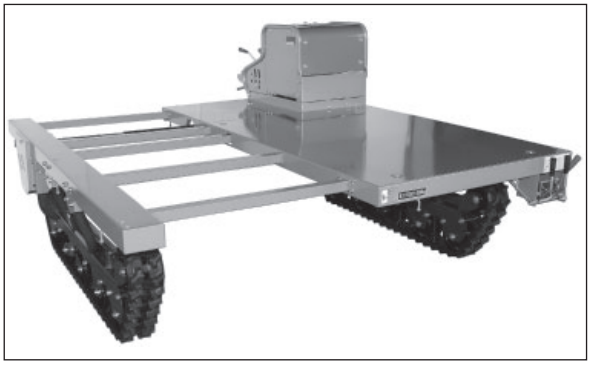
※荷台幅調整をするときに、台車（オプション）または、丸太を使うと楽にできます。

台車または、丸太の上に荷台幅調整の反対側のクローラを載せてから幅調整をします。



※台車または、丸太にクローラを載せるときは、本機が傾かないようにバランス良く載せてください。





［重要］

●荷台の幅調整は、あらかじめアスファルト路面などの平坦な安定した場所で行ってください。圃場内で無理に幅調整を行うと機械の破損をまねくおそれがあります。

６．坂道での運転のしかた

⚠警告

●あらかじめ適正な速度段を選択し、坂道を走行中は、変速をしないでください。

●坂道では駐車をしないでください。守らないと本機が坂をすべり落ちて、事故をおこすおそれがあります。

●坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行し、急な下り坂ではエンジンブレーキを活用してください。

●上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落としてゆっくり発進してください。急発進すると、前側がはね上がり大変危険です。

●変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にしてください。

●傾斜角度15度以上の傾斜地で連続運転すると、エンジン故障のおそれがあり危険ですので、急斜面での運転はしないでください。

７．圃場への出入りのしかた

⚠警告

●圃場への出入り、あぜ越えや段差を乗り越えるときは、十分強度のあるあゆみ板を使用し、荷物は積まないで、重心を低くしてください。

●急な傾斜を登るときは、「前進１」で降りる場合は「後進Ｒ１」で行ってください。

［重要］

●圃場への出入りは、圃場にたいして直角に出入りしてください。

８．トラックへの積込み・積降しのしかた

⚠警告

●積込み、積降しの場所は、交通の安全が確保でき、平坦で安定した場所を選んでください。守らないと思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックはエンジンを止め、動かないようにサイドブレーキを掛け、**「車止め」**をしてください。

●使用するあゆみ板は、幅、長さ、強度が十分あるスリップしないものを選び、あゆみ板が外れないように、フックをトラックの荷台にしっかり掛けてください。

●荷物は積まないでください。

●本機に乗っての運転は厳禁です。

●誘導者は、機械の直前に立たないでください。機体が不意に動いたときに思わぬ事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックへの積込み、積降しは、あゆみ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。進路を変えるためのサイドクラッチレバーの操作は絶対にしないでください。守らないと転落などの事故をおこすおそれがあります。

●積込みは**「前進１」**、積降しは**「後進Ｒ１」**低速で行ってください。さらにアクセルレバーは**「低」**位置にし、エンジンブレーキを十分効かせて、ゆっくりと行ってください。守らないと転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●本機があゆみ板とトラックなどの継目を越えるときには、急に重心が変わりますので、十分に注意してください。転倒・転落による事故やけがをまねくおそれがあります。

●トラックなどに積んで移動するときは、十分強度のあるロープを使用し、確実に固定してください。さらに**「車止め」**をしてください。守らないと、機械の転落や、運転席への突込みによる重大な事故やけがをまねくおそれがあります。

①周囲に危険物のない、平坦な場所を選びます。

②基準に合ったあゆみ板を用意します。

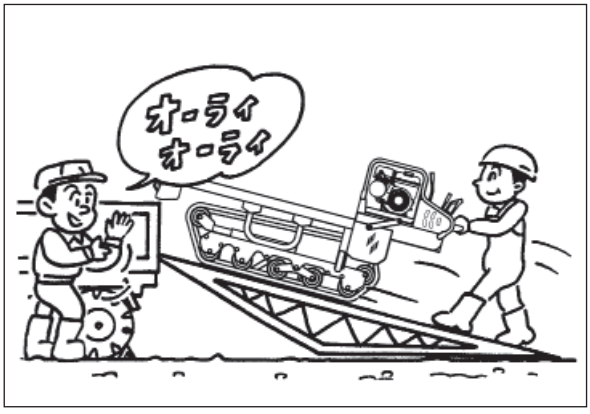
《あゆみ板の基準》

あゆみ板は、基準にあった十分強度のあるものをご使用ください。
●長さ…トラックの荷台高さの４倍以上
●幅……本機のクローラ幅の 1.5 倍以上
●強度…本機の総重量に十分耐えられるもの（１本当たり）
●表面…すべり止めのあるもの
●形状…固定フックのあるもの

③あゆみ板のフックを、トラック荷台と段差のないように確実に掛けてください。

④左右のクローラがあゆみ板の中央に位置するように、本機をセットしてから積込み、積降しを行ってください。

⑤積込みの場合は**「前進１」**で、積降しの場合は**「後進Ｒ１」**の低い速度で行ってください。



5章　作業後の手入れについて

⚠危険

●燃料を抜くときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。エンジンを止め、エンジン、マフラーなどの高温部が冷えてから必ず燃料受けを用意し、燃料をこぼさないようにしてください。燃料などに引火し火災のおそれがあります。

●シートを掛ける場合は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーが十分冷えたことを確認してから掛けてください。守らないと、火災をおこすおそれがあります。

⚠警告

●お手入れは、平坦な安定した場所で行ってください。守らないと機械が転倒して、思わぬけがをするおそれがあります。

●格納時は平坦で安定した場所に置いてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は必ず**「車止め」**をしてください。本機が自然に動いて事故になります。

⚠注意

●お手入れは、エンジンを停止させて行ってください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部分が十分に冷えてから行ってください。高温部に触れると、火傷をするおそれがあります。

●近くに燃えやすいものがあれば取除いてください。火災の原因になります。

1．作業後の手入れ

その日の内に水洗いをし、水洗い後はよく水分をふき取って、各回転・摺動部に油をたっぷり差してください。

⚠警告

●エンジン・マフラーなどにわらくず、草などは必ず取除いてください。そのまま運転しますと､火災の原因になることがあります｡また､マフラーの亀裂や腐食などの異常がないかも点検してください。

［重要］

●水洗いをするときは、エアクリーナの吸気口に水が入らないようにしてください。

●電装品には水を掛けないようにしてください。故障の原因となります。

2．長期間使用しない場合の手入れ

⚠注意

●格納する場合は走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にしてください。使用時にクラッチが切れなくなり、事故をおこすおそれがあります。

※長期間使用しないで格納する場合は、十分な運転により、バッテリを充電をしてください。キーは抜取り保管してください。
（セルモータ仕様）

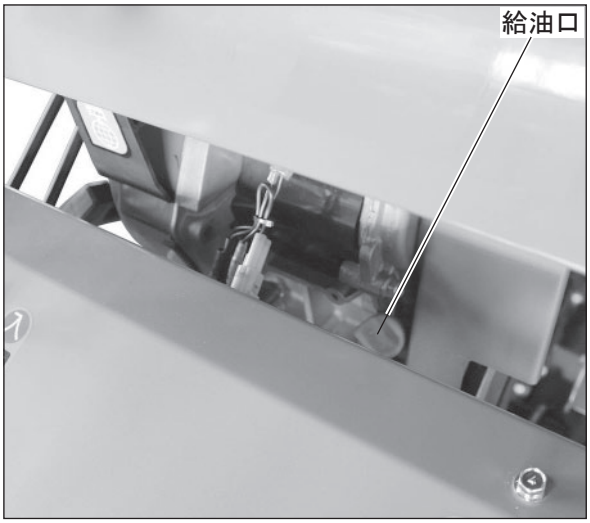
［重要］

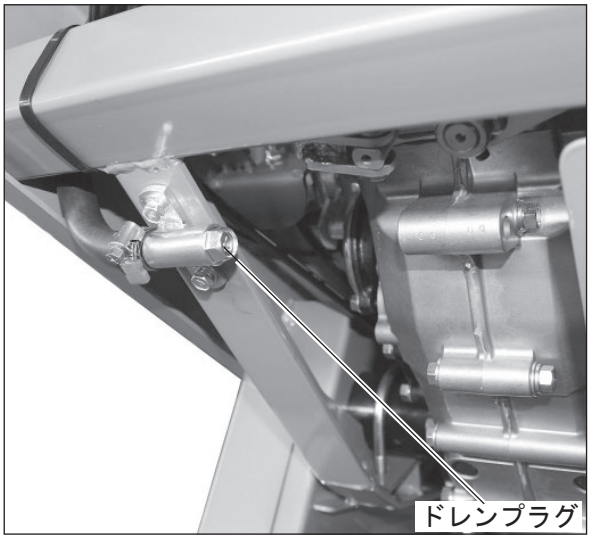
●オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

①エンジンを低速で運転（約５分間）し、停止させます。

②エンジンが暖かいうちにエンジンオイルを抜出して､新油と交換してください。（P 49**「3．各部オイルの点検・交換のしかた」**参照）

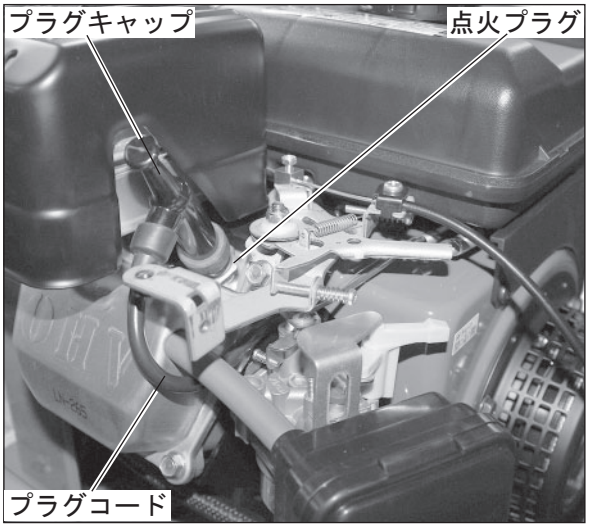
※交換時期の目安は、P 46 を参照してください。



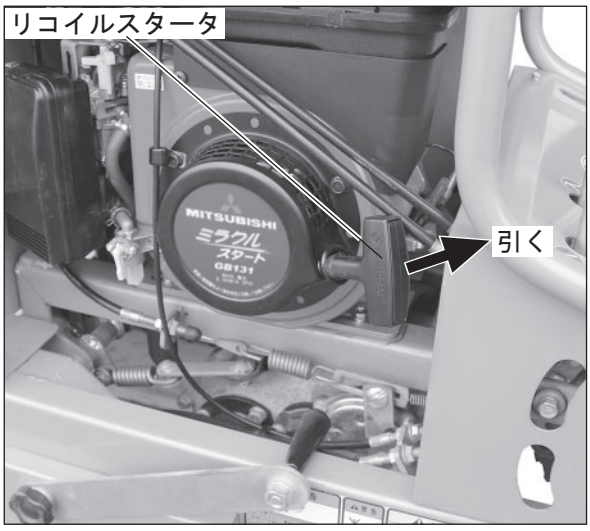


※エンジンが熱い間は作業しないでください。

③点火プラグを外し、点火プラグの穴からエンジンオイルを 10 cc位入れます。



④リコイルスタータを２～３回引きます。



⑤再び点火プラグを取付けて、リコイルスータを軽く引き、重たくなった所（圧縮のある）で止めておきます。（エンジンを始動させてはいけません。）

※圧縮のある位置では、吸排気弁が閉じており、湿気によるエンジン内部の発錆を防ぎます。

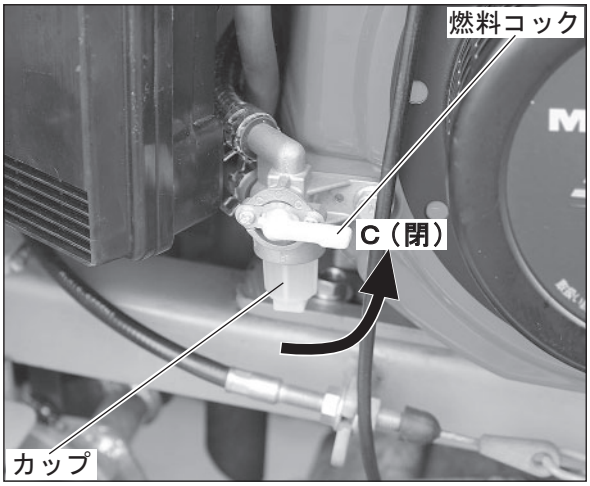
⑥プラグコード、プラグキャップは点火プラグに確実に差込んでください。

⑦燃料タンク・キャブレタ・燃料こし器の中の燃料は抜取っておいてください。

燃料抜きの要領

燃料受け皿を用意して燃料をこぼさないようにしてください。

①燃料コックを**「C（閉）」**にします。

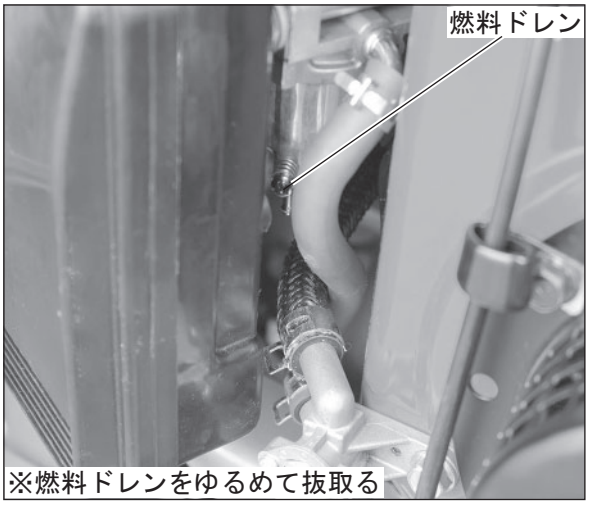


②燃料こし器のカップを外し、燃料こし器の燃料を抜きます。（Ｐ 51**「５．燃料こし器の掃除のしかた」**参照）

③燃料こし器の下に燃料受けを置き、燃料コックを**「O（開）」**にし、燃料タンク内の燃料を全て抜きます。

④燃料コックを**「C（閉）」**にし、カップを元の位置に取付けてください。

⑤キャブレタ内の燃料は、キャブレタ下部の燃料ドレンをゆるめて抜取ってください。
（燃料が出てこなくなるまで、こぼさないように容器に受けてください）



［重要］

●ガソリンは１ヶ月以上放置すると「気化」・「酸化」してエンジンの始動不良や運転不調をひきおこします。機械を保管する場合は、必ず①～⑤の要領で燃料タンク・燃料こし器・キャブレタ内のガソリンを抜いてください。

エンジン以外の手入れ

①乾燥した風通しの良い所で、クローラの下に板を敷いてください。

②外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。

③走行クラッチレバーはＶベルトの変形を防止するため、**「駐車ブレーキ」**位置にしてください。

6章　手入れと点検・調整について

⚠危険

●燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明は、絶対にしないでください。

●エンジンの回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油はしないでください。

⚠警告

●点検、整備は交通の危険がなく、本機が倒れたり動いたりしない平坦な安定した場所で、クローラに車止めをして行ってください。守らないと、転倒などの事故をおこすおそれがあります。

⚠注意

●１年毎に定期点検、整備を受け、各部の保守をしてください。特に燃料ホースは２年毎に交換し、電気配線は毎年点検してください。守らないと、整備不良による事故や機械の故障をまねくおそれがあります。

●点検、整備、修理をするときは、必ずエンジンを停止してください。守らないと思わぬけがを負うおそれがあります。また、高温部が十分に冷えてから行ってください。火傷をするおそれがあります。

●点検、整備などで取外したカバー類は、必ず取付けてから作動確認をしてください。衣類などが巻込まれて危険です。

●部品の交換、および草・わらくずなどのゴミを取るときは、エンジンが十分に冷えてから行ってください。

定期点検や整備は、シーズンオフに行いますとシーズン中に機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するために、１年毎に販売店で定期点検、整備を受け、各部の安全を確認してください。特に燃料ホースやゴムホース類は２年毎に交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

１．定期点検一覧表

点検・調整箇所	規定量	内容	点検・交換時期	参照ページ
エンジンオイル	０．５L	４サイクルガソリンエンジン用オイル ＳＥ級以上 ＳＡＥ１０Ｗ－３０番 交換	作業前点検 １回目：２５時間目 ２回目以降： ５０時間毎	４９
走行ミッションオイル	１．４L	ギヤオイル９０番交換	１回目：５０時間 ２回目以降： １００時間毎	５０
エアクリーナ		灯油で洗浄または交換	作業前点検	５１
燃料こし器		洗浄	５０時間毎	５１
キャブレタ		燃料のもれ・にじみの点検	作業前点検	５２
燃料ホース		交換、結合部の点検	２年毎	５２
電気配線		被覆のはがれや傷を点検	毎年点検	５２
点火プラグ	０．７㎜	清掃、電極すきまの調整	５０時間毎	５３
クローラ	１０～２０㎜	たわみ量の調整	作業前に点検	５５
サイドクラッチレバー		「入」・「旋回」が 確実に行われるか確認		５５
前サイドクラッチレバー	左右各 ０～５㎜	遊び量		５６
ブレーキ		ブレーキの効きの確認		５７
走行クラッチレバー		ベルトがスリップ していないか確認		５７
補助クラッチレバー	０～５㎜	遊び量		５８
トラックローラ取付ボルト		増締め		５９
エンジン取付ボルト		増締め		５９

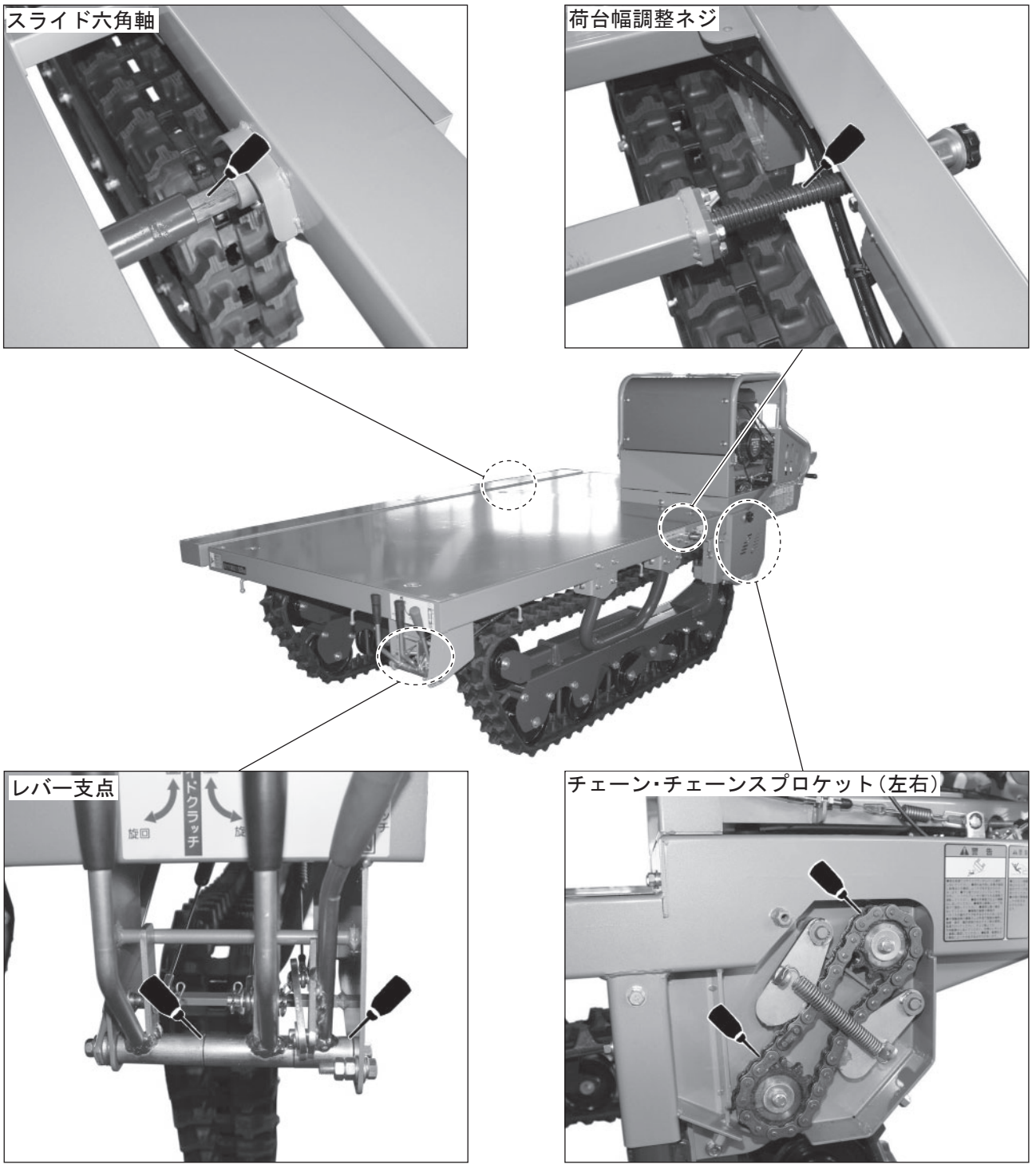
2．各部の注油・グリスアップのしかた

⚠注意

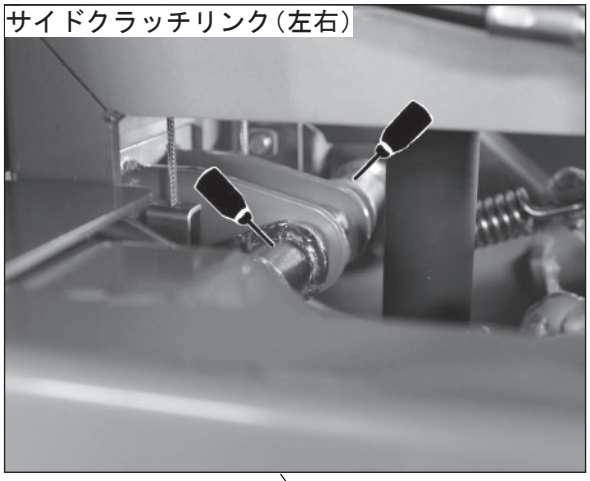
●記載されている以外にも、摩擦部や摺動部には必ず注油・グリスアップをしてください。作動不良をまねいて物損・傷害をおこすおそれがあります。

●定期的に油さし・グリスポンプで確実に注油・グリスアップをしてください。

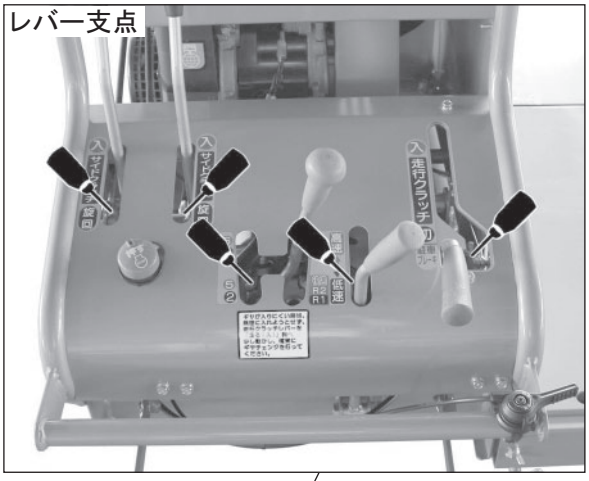
〈凡例〉 注油位置 グリスアップ位置

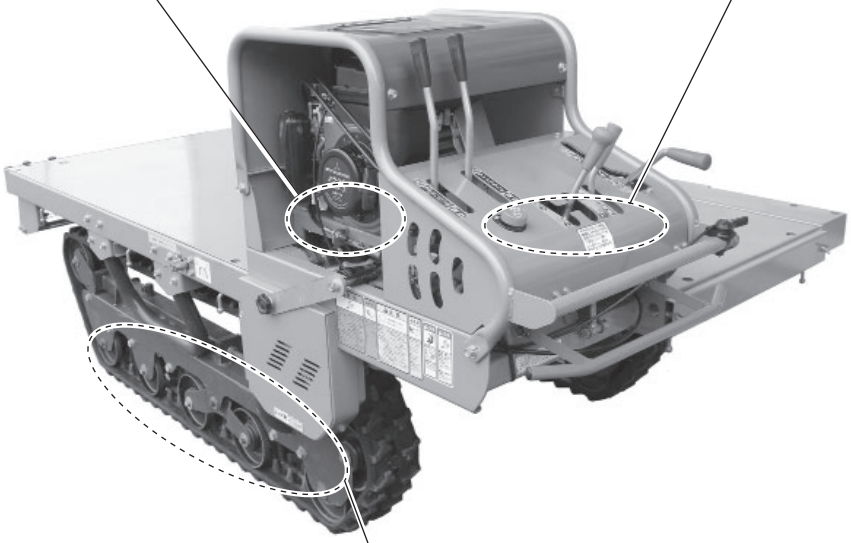


サイドクラッチリンク（左右）

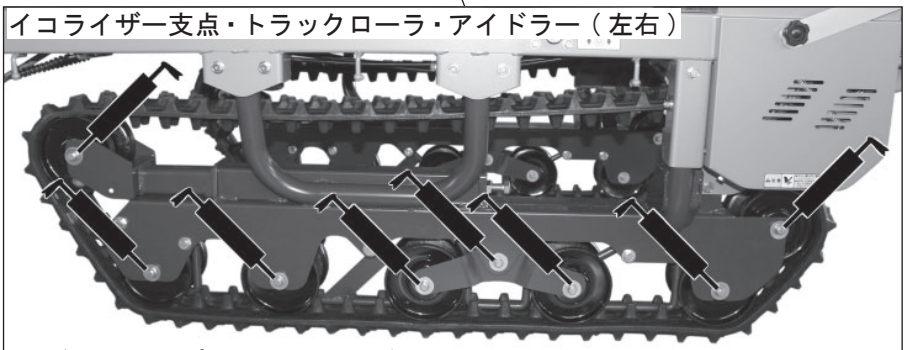


レバー支点





イコライザー支点・トラックローラ・アイドラー（左右）



※グリスアップは、イコライザー支点・トラックローラ・アイドラーに付属のグリスニップルとグリスアップボルトを取付け、グリスアップをしてください。

３．各部オイルの点検・交換のしかた

古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく、故障の原因にもなります。定期的に古いオイルを抜取り、新しいオイルを規定量給油してください。

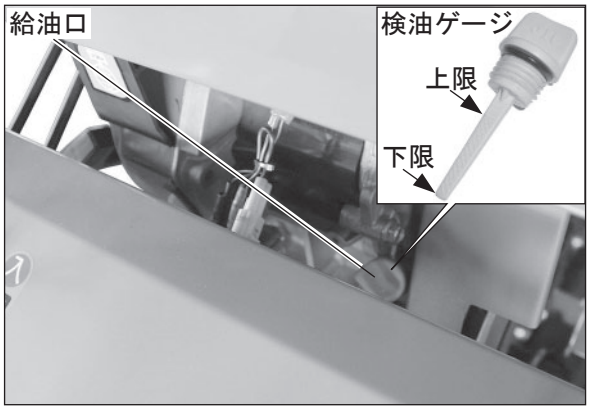
［重要］

●オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。廃油の処分は、販売店に相談してください。

エンジンオイル

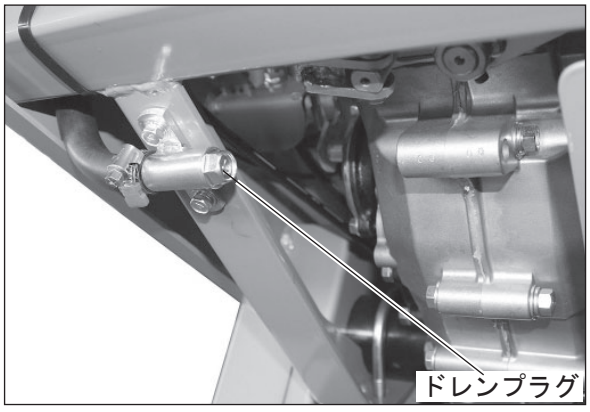
点検

機械を水平な場所に置きます。給油口の蓋を外して、検油ゲージの先端をきれいにふき、ねじ込まない状態で差込み、再び抜いて検油ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。汚れているときは交換してください。



交換

①ドレンプラグをスパナで外し、給油口の蓋をエンジンオイルが噴き出さないように、少しずつ加減をしながらゆるめ、汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。



②オイルが出なくなったら、ドレンプラグを元のようにしっかり締込んでください。

※エンジンが温かいうちに抜くと容易に抜くことができます。

③給油は、付属のジョウゴとホースで給油口にホースを差込み規定量（0.5L）を入れてください。



④オイル給油後は、元のように給油口の蓋を締込み取付けてください。

⚠注意

●エンジンが熱いうちは行わないでください。熱いオイルが体にかかると火傷をするおそれがあります。

［重要］

●オイルの量はエンジンを停止して調べてください。

●給油するときは、本機を必ず水平にして行ってください。

●エンジンオイルを抜くときに、給油口の蓋を外すとエンジンオイルが噴き出し衣服などを汚すおそれがあります。

●給油をするオイルは、必ず、規定のオイルを使用してください。

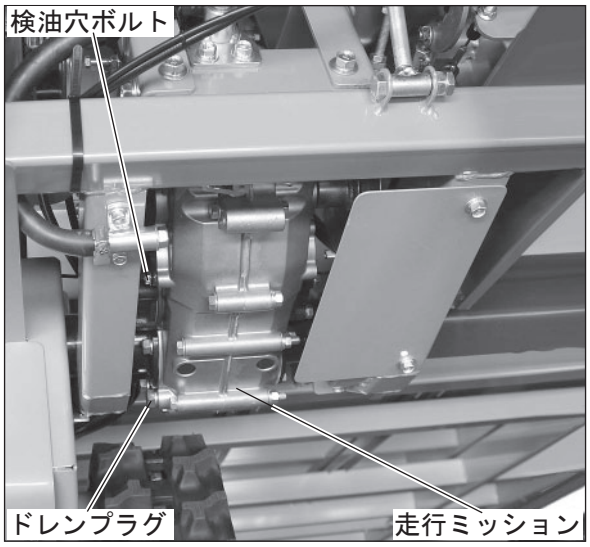
●オイルの点検・交換作業後はドレンプラグや給油口の蓋を確実に締付けてください。

走行ミッションオイル

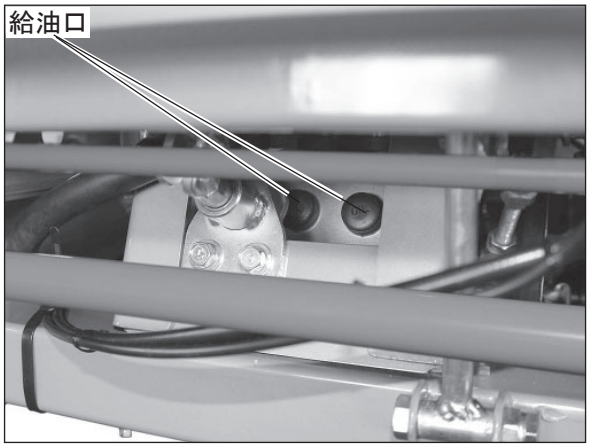
点検

①油もれのないことを調べてください。

②走行ミッション左側面の検油穴ボルトをゆるめ、オイルが出てくるか調べます。



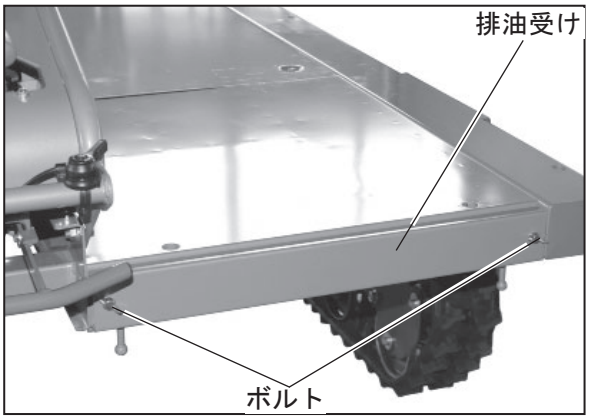
③検油穴からオイルが出ない場合は、検油穴からオイルが出てくるまで給油口（２ヶ所）からミッションオイルを補給をし、検油ボルトを元のように取付けて締込んでください。



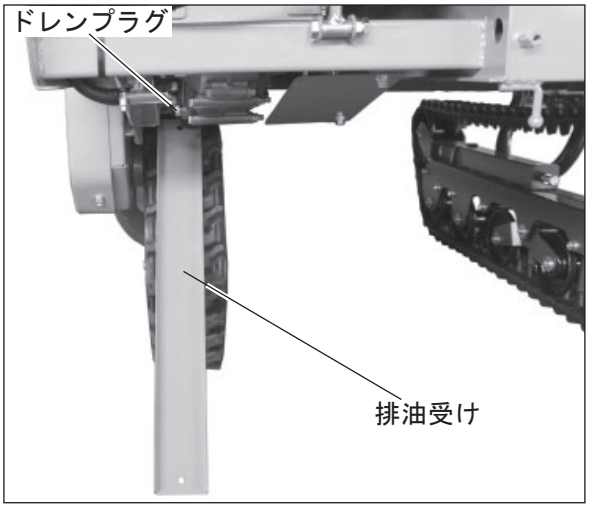
※給油口は二つあります。給油をする場合は、二つとも外して補給しやすいほうで給油をしてください。残りの一つは吹きこぼれないようにエア抜きの役割をします。

交換

①荷台後側面の排油受けをボルトをゆるめて外します。



②下の写真のように、クローラを利用して排油受をドレンプラグの真下に置き、ドレンプラグを外して汚れたオイルを流し出し、こぼさないように容器に受けてください。オイルが出なくなったら、ドレンプラグを元のようにしっかり締込んでください。



③検油穴ボルトを外し、ミッションオイルを給油口より給油し、検油穴からオイルが出てくるまで給油をします。

④給油後は、検油穴ボルトを元通りに取付けて締込み、給油口の蓋を確実に取付けてください。

［重要］

●廃油受け皿に排出したオイル内に鉄粉などが混入している場合は、ギヤの磨耗などミッションの破損の前兆であり、走行ミッションの分解チェックを要します。お買上げいただいた販売店にご相談ください。

４．エアクリーナの掃除・交換のしかた

⚠警告

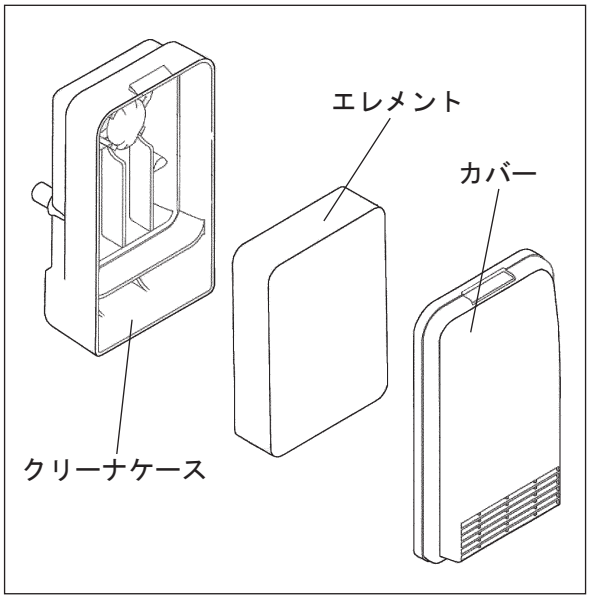
●エアクリーナのフタ（カバー）を外したまま始動をしないでください。守らないと逆火により、火災が発生するおそれがあります。

エアクリーナは、いつもエンジンを快適にする装置です。汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

①エアクリーナのロック金具を外して、カバーを取外します。



②中のエレメントを取外して、灯油で洗ってエンジンオイルに浸します。



③エレメントを硬くしぼって取付け、カバーを元通りに確実に取付けてください。

５．燃料こし器の掃除のしかた

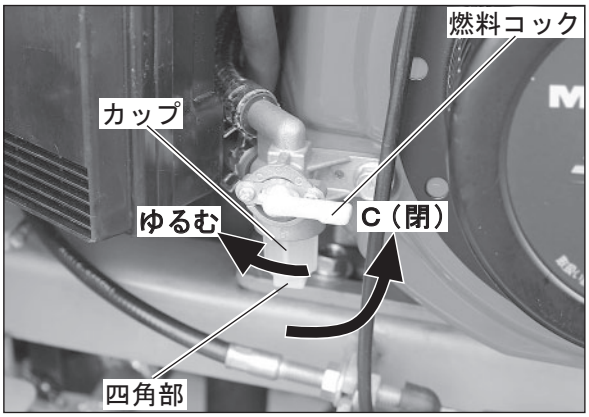
⚠危険

●燃料コックが「O（開）」になったままで燃料こし器のカップを外しますと、燃料タンク内の燃料が流れ出ます。万一、引火した場合、火災のおそれがありますので、必ず、燃料コックを「C（閉）」にしてください。

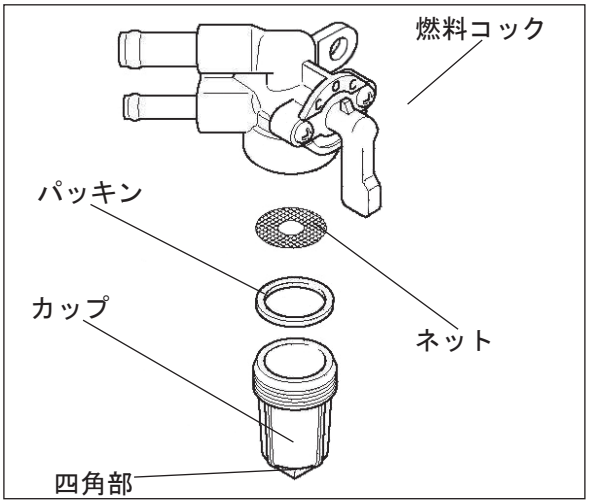
燃料の中に入ったゴミや水が、燃料こし器のカップに沈殿したときは、カップを外してゴミや水を抜取ってください。

①燃料コックを「C（閉）」にします。

②カップ下部の四角部を 10 ㎜のスパナなどでゆるめて外します。



③カップのゴミや水を取除き、ネットの目詰まりを掃除します。



④カップを元に戻して確実に取付けます。

［重要］

●ゴミや水の混入が多い場合は、燃料を抜取り、新しい燃料と交換してください。

６．キャブレタの点検のしかた

キャブレタに燃料もれ・にじみがあった場合は、お買上げいただいた販売店で点検を受けてください。

［重要］

●燃料ホース、ゴムパッキンなどは長年の保管により劣化します。ご使用のない場合も、使用前には必ず点検をしてください。



７．燃料ホース・電気配線の点検のしかた

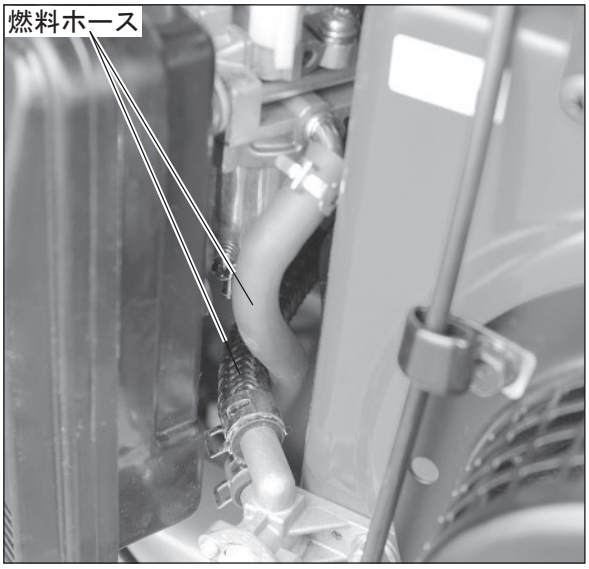
⚠危険

●燃料ホースの老化や傷による燃料もれがあると、火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

⚠注意

●配線コードに付着しているわらくずやゴミは、作業前後にきれいに取除いてください。守らないと、火災の原因となることがあります。

燃料ホースの傷や接続部の締付けバンドのゆるみ、燃料もれがないか確認してください。また、電気配線コードが他の部品に接触していないか点検します。燃料ホースや電気配線コードが傷んでいる場合は、販売店で修理してください。
燃料ホースは傷んでいなくても２年毎に交換するようにしてください。
電気配線は１年毎に定期点検を受けてください。



８．点火プラグの点検のしかた

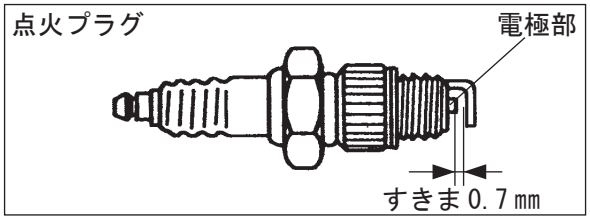
⚠注意

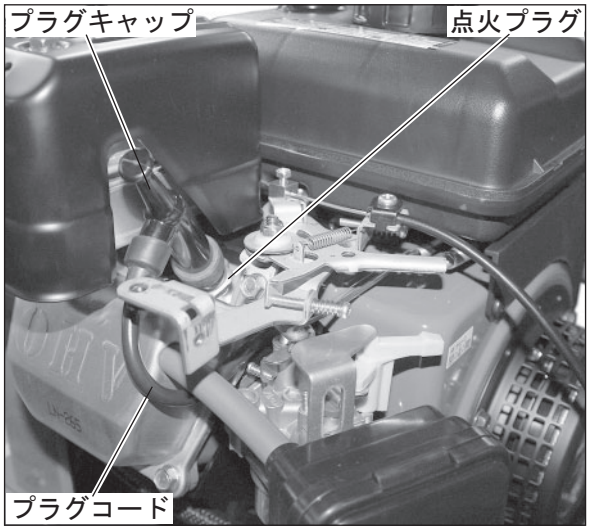
●エンジンが熱いうちに点火プラグを外さないでください。火傷のおそれがありますので、エンジンが冷えてから行ってください。

①定期的に点火プラグを取外し、電極部の焼け具合、損耗程度を点検し、ワイヤブラシで清掃します。

②電極部のすきまは0.7㎜に調整してください。

※始動不良、運転中の失火は点火プラグの電極すきまが大きすぎても少なすぎても、点火プラグが汚れたときにもおこります。





［重要］

●電極部の清掃、電極すきまの調整をしてもまだエンジンのかかりが悪い場合は、お買上げいただいた販売店で点検を受けてください。

●電極部が損耗または、破損したものは新品と交換してください。そのまま使用するとエンジンの不調、燃料のムダ使い、排ガス不良となります。

●プラグコード・プラグキャップは点火プラグに確実に差込んでください。

９．バッテリパックの交換のしかた

［セルモータ仕様］

⚠危険

●バッテリパックを火中に投下したり、火気に近づけたり、加熱、また高温状態で放置したりすると発熱、発火、破裂することがあります。

●バッテリパックを分解したり、改造したり、強い衝撃を与えないでください。発熱、発火、破裂の原因となります。バッテリパックに衝撃を与えたり、外観に明らかな変形や破損が見られる場合は、使用をやめてください。

●バッテリパックの充電は、指定以外の方法で充電しないでください。発熱、発火、破裂の原因となります。

●バッテリパックは、エンジン始動用です。指定以外の用途に使用すると発熱、発火、破裂の原因となります。

●バッテリパックから漏液したり、異臭がするときは、直ちに火気より遠ざけてください。漏れた液に引火し、発火、破裂の原因となります。

●工具などでショートやスパークをさせないでください。ガソリンやオイルに引火し爆発や火災の原因になります。

⚠警告

●バッテリパックを水などの液体で濡らさないでください。感電やショートによる火災の原因になります。

●バッテリパックの端子部分にピンや針金などの金属物をさしこまないでください。感電やショートによる火災などの原因になります。

●バッテリパックから漏れた液が目に入ったり、皮膚についたときは、炎症を防ぐためにこすったりせず、すぐにきれいな水で洗い流し、医師に相談してください。衣服に付いた場合は、すぐに脱いでください。

●乳幼児の手の届く場所に保管しないでください。思わぬ事故やけがの原因になします。

［重要］

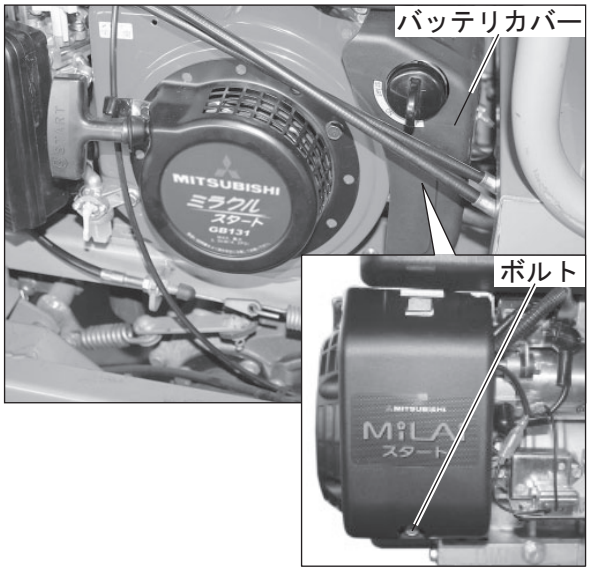
●十分な運転による充電を行っても始動回数が少なくなった場合は寿命です。（バッテリの寿命は使用・保管などの状態により変化します。）

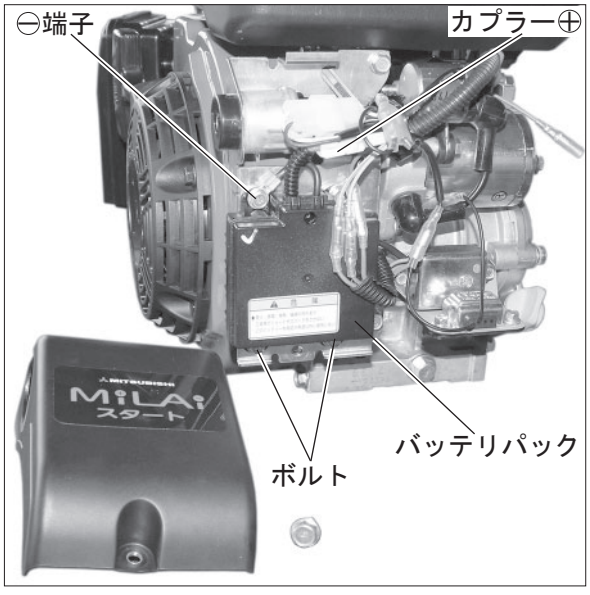
●寿命、もしくは保護機能が作動したバッテリパックは交換が必要です。

バッテリパックの交換

①バッテリカバーをボルトをゆるめて取外します。

②カプラーを外し、バッテリパックの㊀側のコードを取外し、次に㊉側のコードを取外し、その他のボルトを外してバッテリパックを取出します。





③新しいバッテリパックを取付けるときは、取外しの逆の手順で行ってください。

④取付が終ったら、エンジンを始動し、充電を行ってください。

バッテリパック仕様

定格電圧	ＤＣ１２．８Ｖ
定格容量	１．０Ａｈ
温度範囲	０～６０℃

［重要］

●バッテリパックの交換は、必ず規定のバッテリパックを使用してください。

バッテリパックの廃棄

※リチウムイオンバッテリは回収、再資源化が義務付けられています。バッテリパックを家庭用ごみとして処分しないでください。廃棄するときは、お買上げいただいた販売店にご相談ください。

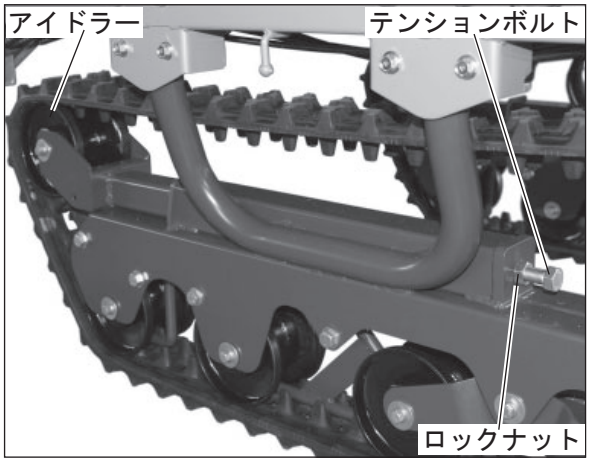
９．クローラの張り調整のしかた

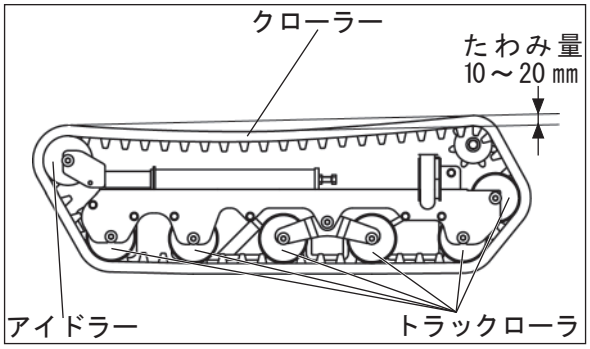
⚠注意

●テンションボルトの締込みは左右均等に行ってください。調整後は、必ずロックナットを締付けてください。守らないと、クローラが外れたりして、思わぬ事故の原因となります。

①クローラがゆるんだときは、ロックナットをゆるめます。

②テンションボルトを締込んでクローラを張ります。このときのたわみ量が 10 ～ 20 ㎜程度に調整してください。





③調整後は、ロックナットを確実に締付けてください。

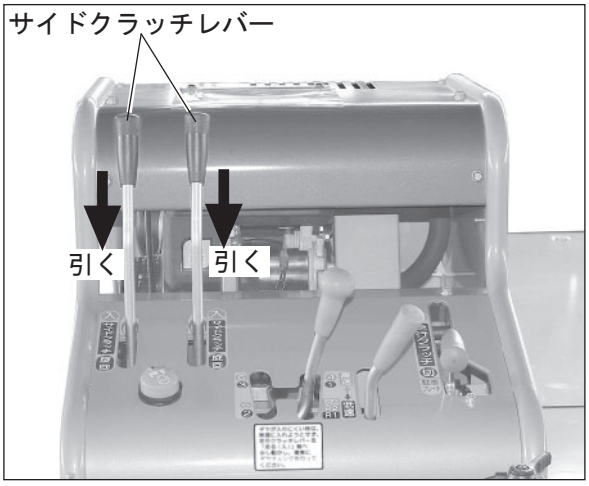
10. サイドクラッチレバーの点検のしかた

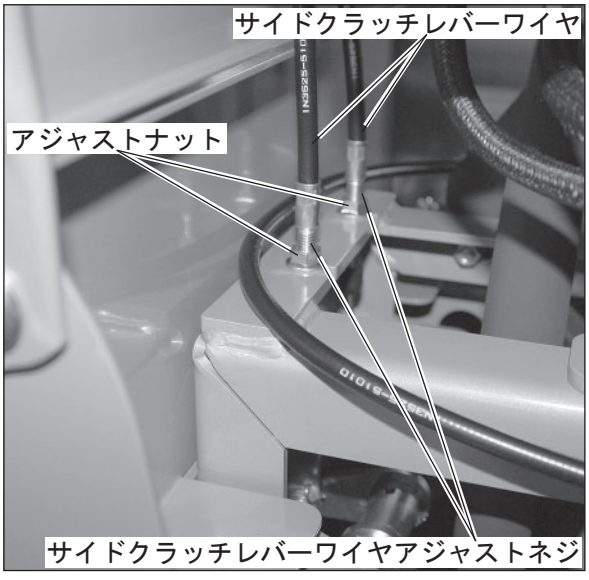
⚠警告

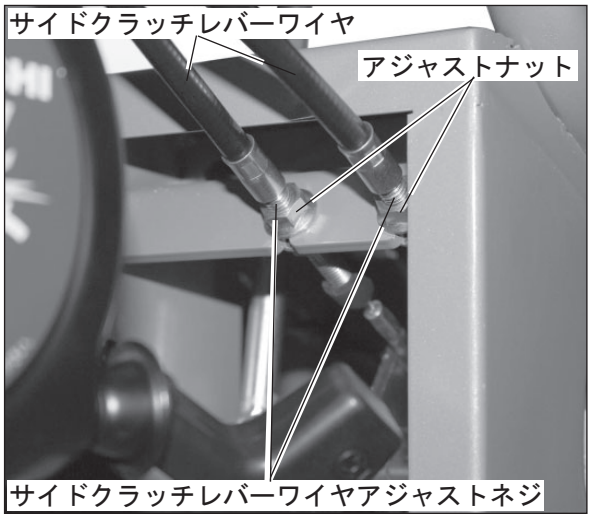
●確実にサイドクラッチレバーが**「入」・「旋回」**ができるか点検をしてください。思うように旋回できずに事故をおこすおそれがあります。

エンジン側サイドクラッチレバー

確実にサイドクラッチレバーが「入」・「旋回」ができるように、サイドクラッチレバーの点検をしてください。もし、不具合がある場合は、サイドクラッチレバーワイヤアジャストネジで調整します。調整についてはお買上げいただいた販売店にご依頼ください。

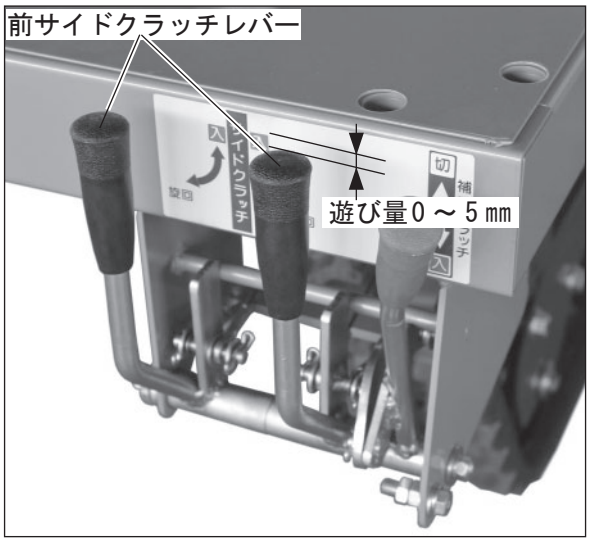




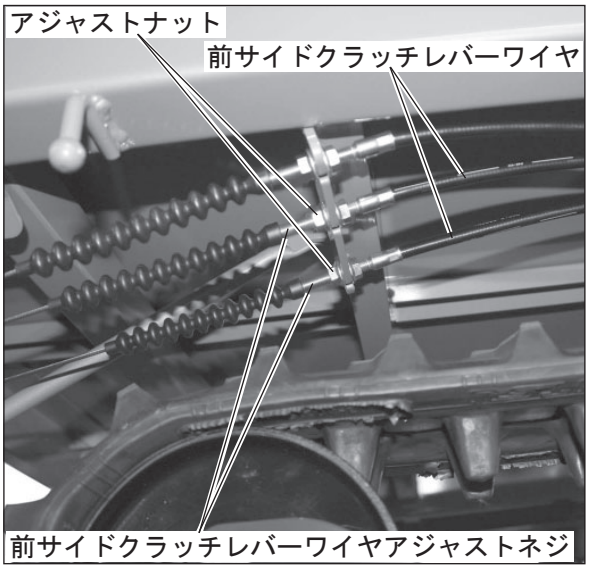


前側サイドクラッチレバー

前サイドクラッチレバーが「入」位置のときの前サイドクラッチレバーの遊び量（０～５㎜）を調べてください。規定の遊び量でない場合は、前サイドクラッチレバーワイヤアジャストネジで調整します。調整についてはお買上げいただいた販売店にご依頼ください。





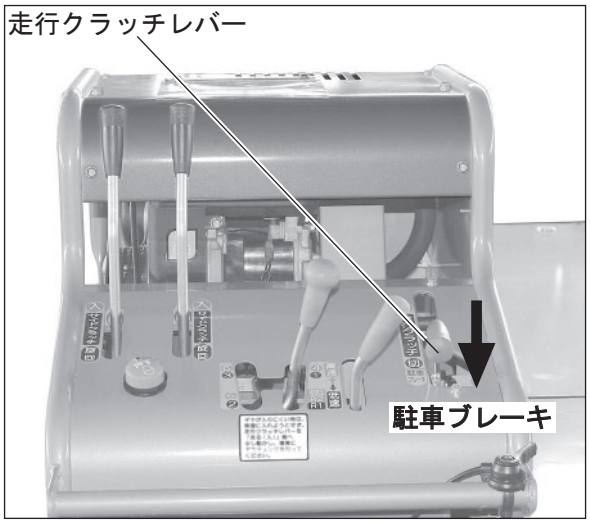


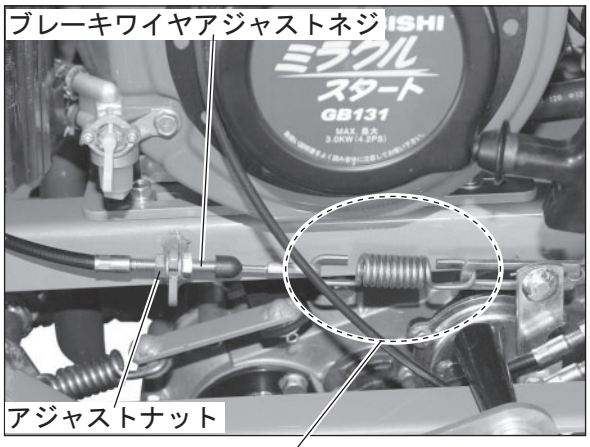
11. ブレーキの点検のしかた

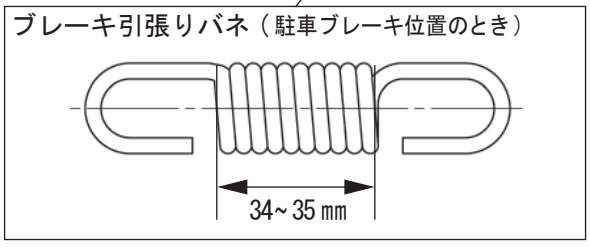
⚠警告

●ブレーキの効きが悪かったり、ブレーキが効いたままにならないように点検してください。守らないと、事故をおこすおそれがあります。

走行クラッチレバーを**「駐車ブレーキ」**位置にしたときのバネの長さ（34 ～ 35 ㎜）を確認してください。もし､規定の長さでないときは､ブレーキワイヤアジャストネジで調整します。調整については、販売店にご依頼ください。



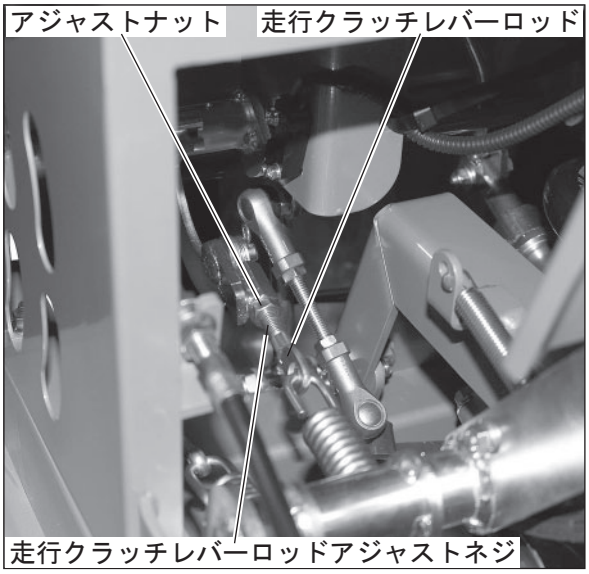




12. 走行クラッチレバーの点検のしかた

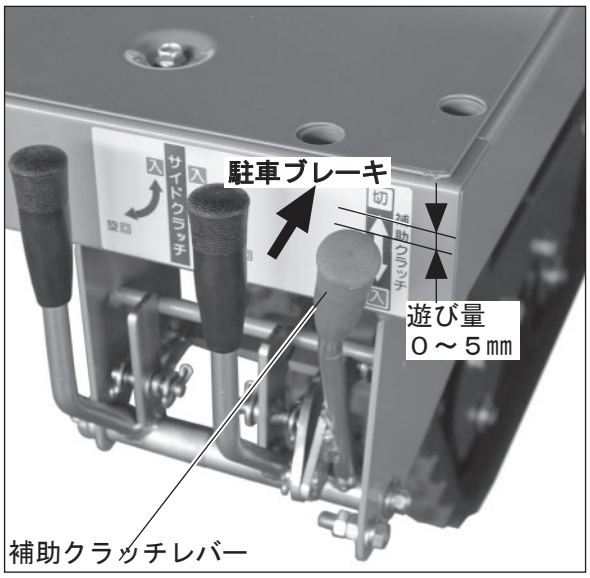
走行クラッチレバーの「入」､「切」が確実におこなわれ、しかも「走行クラッチ入」位置でベルトがスリップしていないか点検してください。もし、不具合がある場合は、走行クラッチレバーロッドアジャストネジで調整します。調整については、販売店にご依頼ください。

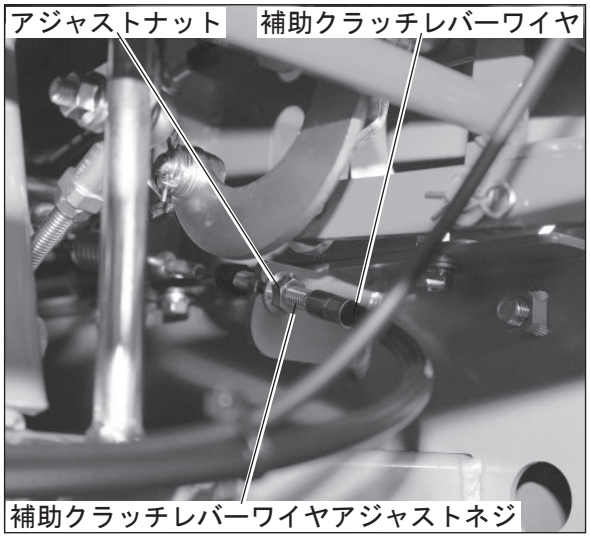


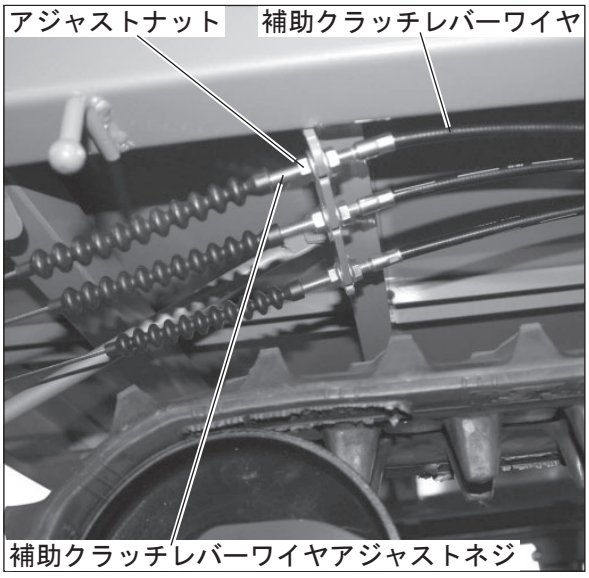


13. 補助クラッチ レバーの点検のしかた

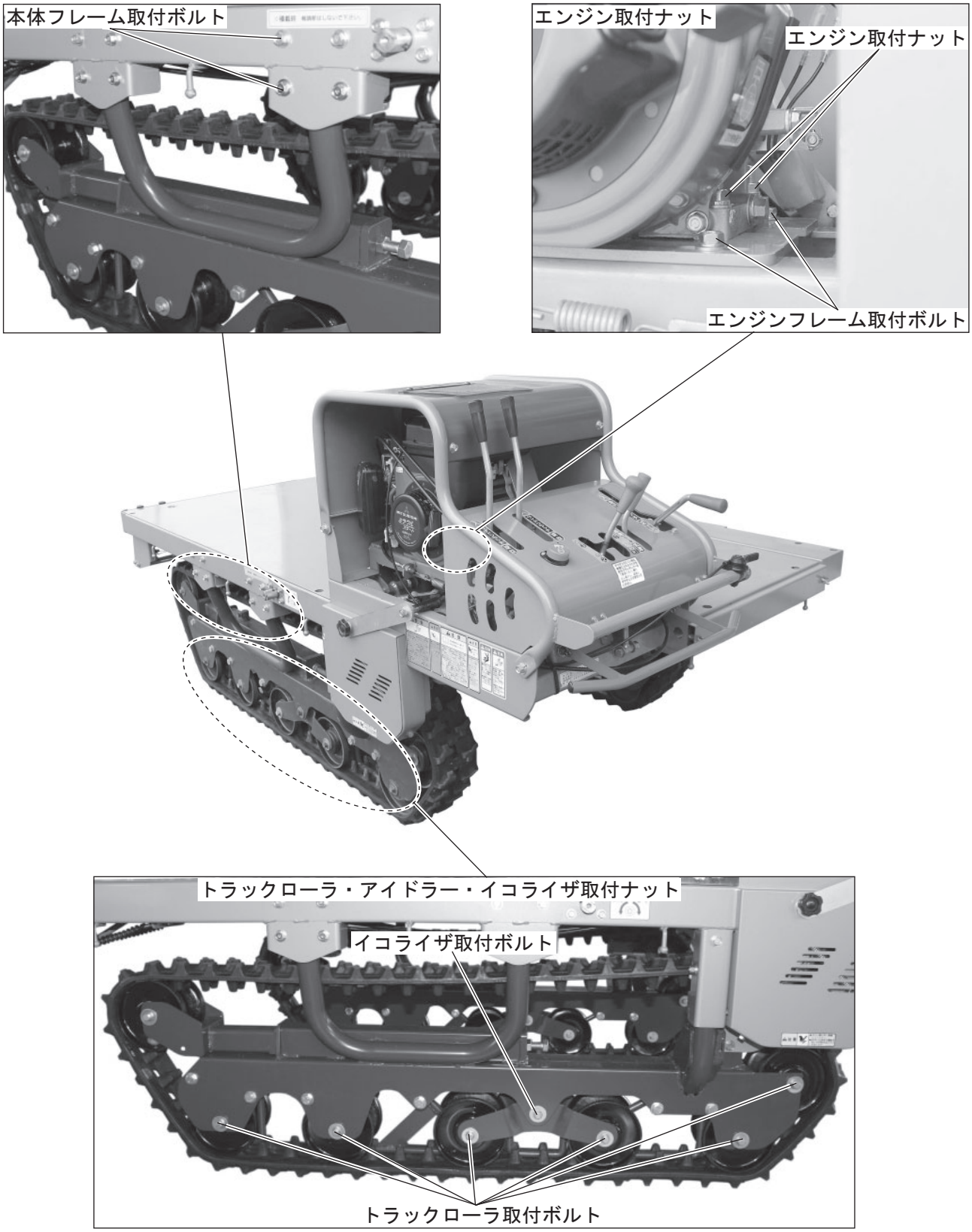
補助クラッチレバーの遊び量（０～５㎜）を調べてください。規定の遊び量でない場合は、走行クラッチレバーワイヤアジャストネジで調整します。調整については、販売店にご依頼ください。







14. 締付けするところ



※エンジン取付ナットは前後に合計４ヶ所、イコライザ･アイドラー･トラックローラ･ハンドル取付ボルト、
　ナットは、左右にそれぞれにあります。
※この他のボルト、ナットも時々点検し、増締めしてください。

7 不調診断

⚠警告

●機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

下記の処置をしても改善されないときは、購入された販売店に連絡してください。

1．エンジンがかからない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。	２９
購入後１ヶ月以上経過した燃料を使用していませんか。	燃料タンク・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料を補給をしてください。	４４
エンジンの始動手順が間違っていませんか。	正しい始動手順でエンジンを掛けてください。	３０
走行クラッチレバーを「入」位置にしていませんか。	走行クラッチレバーを完全に「駐車ブレーキ」位置にしてから、リコイルスタータ仕様は、エンジンストップスイッチを「運転」位置に回し、セルモータ仕様はキースイッチを「ＳＴＡＲＴ」位置に回してください。	３１
燃料に水が入っていませんか。	燃料こし器に水が溜まっていれば、燃料こし器を外して水抜きをしてください。	５１
バッテリパックの充電容量が少なくなっていませんか。（セルモータ仕様）	リコイルスタータでエンジンを始動し、運転によって充電してください。	３２
バッテリパックの保護機能が働いていませんか。（セルモータ仕様）	新しいバッテリパックと交換してください。	３１・５３
点火プラグが悪くなっていませんか。	点火プラグを外し、乾いた布などで良く乾燥させてください。	５３
	点火プラグの電極部を清掃し、電極すきまを調整してください。それでもかからない場合は、販売店に相談してください。	５３

２．エンジンの力がない

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
エアクリーナにゴミが詰まっていませんか。	エレメントを取外し、灯油で洗い、オイルに浸し硬くしぼって取付けてください。	５１
エンジンオイルが少なくなっていませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと交換してください。	４９
積荷が重すぎませんか。	坂道では特に積荷を軽くしてください。	３８
ベルトがスリップしたり、張りすぎていませんか。	必ず販売店で点検・調整を受けてください。	５７
エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバーの取付位置や、アクセルワイヤのセット位置が動いていたら、必ず販売店で点検・調整を受けてください。	
エンジンの圧縮がないのではありませんか。	ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、販売店に相談してください。	

３．各部に振動が多い

この確認をしてください。	処　　置	参照ページ
エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルトを強く締付けてください。	５９

8章　用語解説

あ　行

アイドラー　　遊動輪とも呼ばれ、クローラの張りを調整する転輪。

イグニッションコイル　　内燃機関の点火装置で高電圧を発生させるための誘導コイル。

か　行

クローラ　　走行用ゴム履帯。

グリスアップ　　グリスポンプでグリスニップルにグリスを注入すること。

さ　行

サイドクラッチレバー　　旋回するための操作レバー。

走行ミッション　　変速と減速を行う歯車装置。

た　行

トラックローラ　　転輪とも呼ばれ、クローラを支えることを目的とした装置。

ら　行

リコイルスタータ　　手動式でエンジンを始動させる装置。

1．主要諸元

型式名				NKCG2000－A	NKCG2000－ALB
機体寸法	全長（mm）			2380（レバー先端～補助停止レバー後端）	
	全幅（mm）			1265～2065（チェーンカバー端～ハンドルノブボルト端）	
	全高（mm）			1110（エンジンカバー上端）	
機体質量（kg）				385	390
エンジン	型式名			GB131LN	GB131LL
	種類			空冷4サイクル　1シリンダー　ガソリン	
	最大出力｛kW(ps)｝			3.0（4.2）	
	定格出力／回転速度 {kW(ps)/rpm}			2.3（3.1）/ 1800	
	総排気量｛L(cc)｝			0.126（126）	
	始動方式			リコイルスタータ式	セルモータ式（リコイルスタータ式）
	燃料／タンク容量（L）			自動車用無鉛ガソリン／2.5	
伝動・走行部	変速段数			前進6段　後進2段	
	走行速度（km/h）	前進	1速	0.42（主変速「前進1」・副変速「低」）	
			2速	0.65（〃「前進2」・〃「低」）	
			3速	1.15（〃「前進3」・〃「低」）	
			4速	1.41（〃「前進1」・〃「高」）	
			5速	2.21（〃「前進2」・〃「高」）	
			6速	4.01（〃「前進3」・〃「高」）	
		後進	1速	0.50（主変速「後進R1」・副変速「低」）	
			2速	1.71（〃「後進R2」・〃「高」）	
	クローラ幅（mm）			130	
	トレッド（mm）			900～1700	
	接地長（mm）			1070	
	ブレーキ型式／取付位置			内部拡張式／走行ミッションブレーキ軸	
荷台	寸法（mm）	長さ		2140（1470）	
		幅		1200～2000	
	最大作業能力（kg）			600	
	荷台幅調節方式			ハンドル手廻し	

●この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

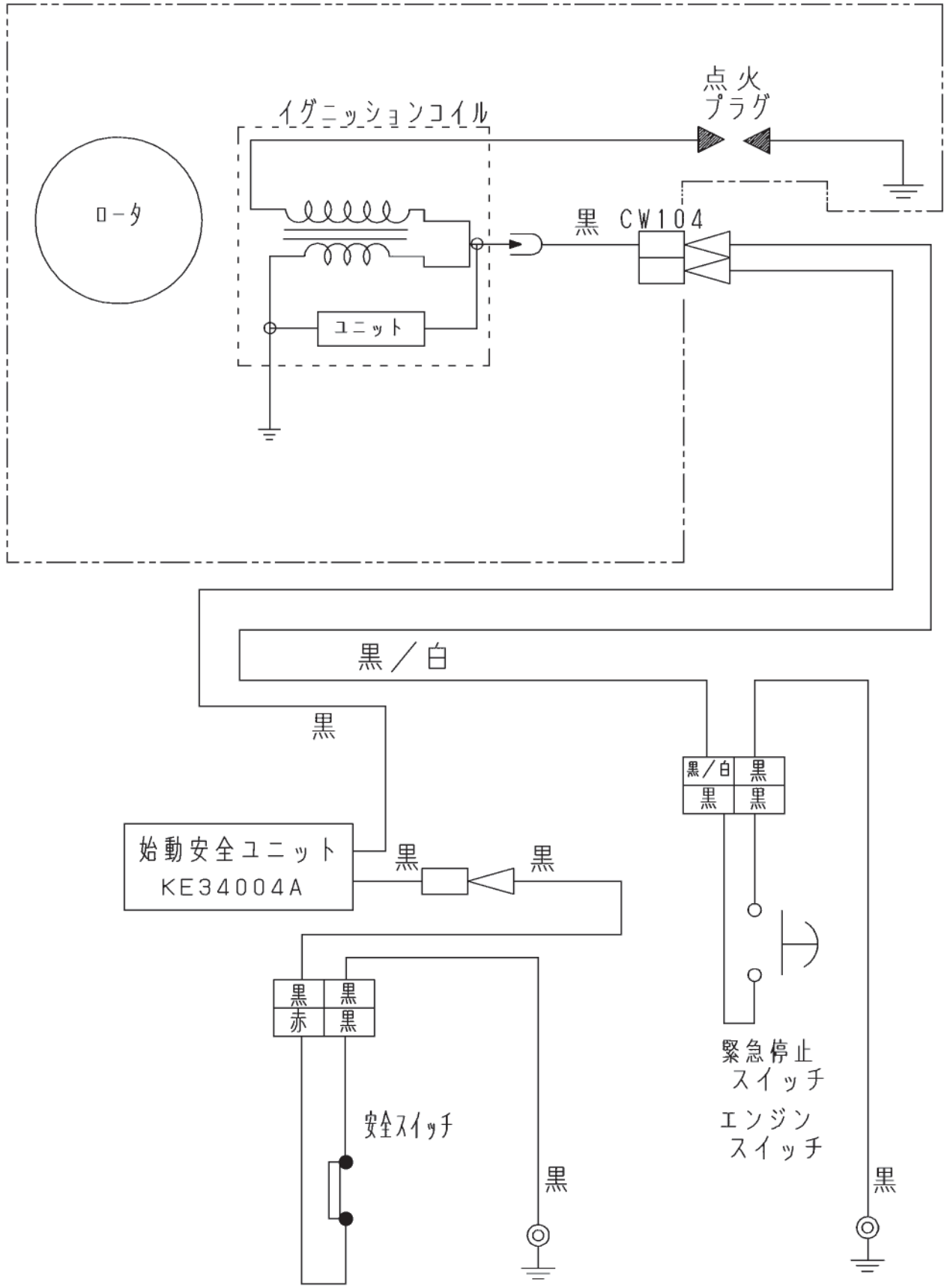
２．主要消耗部品

NO.	品名	部品番号	備考
１	ＶベルトＳＢ３５	２５１２３－００３５０１	リコイルスタータ仕様
２	ＶベルトＳＢ３６	２５１２３－００３６０１	セルモータ仕様
３	クローラ	１Ｎ３５２５－３７０００	１３０×５７×６０
４	アクセルワイヤ	１Ｎ３５０３－５１１５０	
５	コントロールワイヤ	１Ｎ３５２５－５１０００	補助クラッチレバーワイヤ
６	コントロールワイヤ	１Ｎ３５２５－５１０１０	ブレーキ用
７	コントロールワイヤ	１Ｎ３５２５－５１０２０	サイドクラッチレバーＬ
８	コントロールワイヤ	１Ｎ３５２５－５１０３０	サイドクラッチレバーＲ
９	コントロールワイヤ	１Ｎ３５２５－５１０４０	サイドクラッチレバー前用　２本
１０	ブレーキシュー	７Ｎ３５０３－２５０００	
１１	点火プラグ (NGK-BP6HS)	ＫＥ４１０２２ＡＤ	リコイルスタータ仕様
１２	点火プラグ (NGK-BPR6HS)	ＫＥ４１０２２ＢＤ	セルモータ仕様
１３	エアクリーナエレメント	ＫＡ０１０９１ＡＡ００３	リコイルスタータ仕様
１４	エアクリーナエレメント	ＫＡ０１１０８ＡＡ００３	セルモータ仕様
１５	バッテリパック	ＫＥ９０４８０ＡＡ	セルモータ仕様

付属品

No.	品名	個数	部品番号	備考
１	ボックススパナ	１	ＫＮ１２００４ＢＡ	Ｌ＝９４㎜
２	スクリュードライバ	１	ＫＮ１３００１ＡＡ	
３	ホース	１	１Ｎ３５２０－９１０００	
４	ジョーゴ	１	１Ｎ１０７０－９１０１０	
５	グリスアップボルト	１	１Ｎ３５２５－３６１７０	
６	グリスニップル	１	２４７６１－０６００００	Ａ－Ｍ６Ｆ
７	取扱説明書	１	１Ｎ３５２５－９５０６２	
８	保証書	１		

●リコイルスタータ式　三菱エンジンＧＢ１３１ＬＮ



●セルモータ式　三菱エンジンＧＢ１３１ＬＬ

